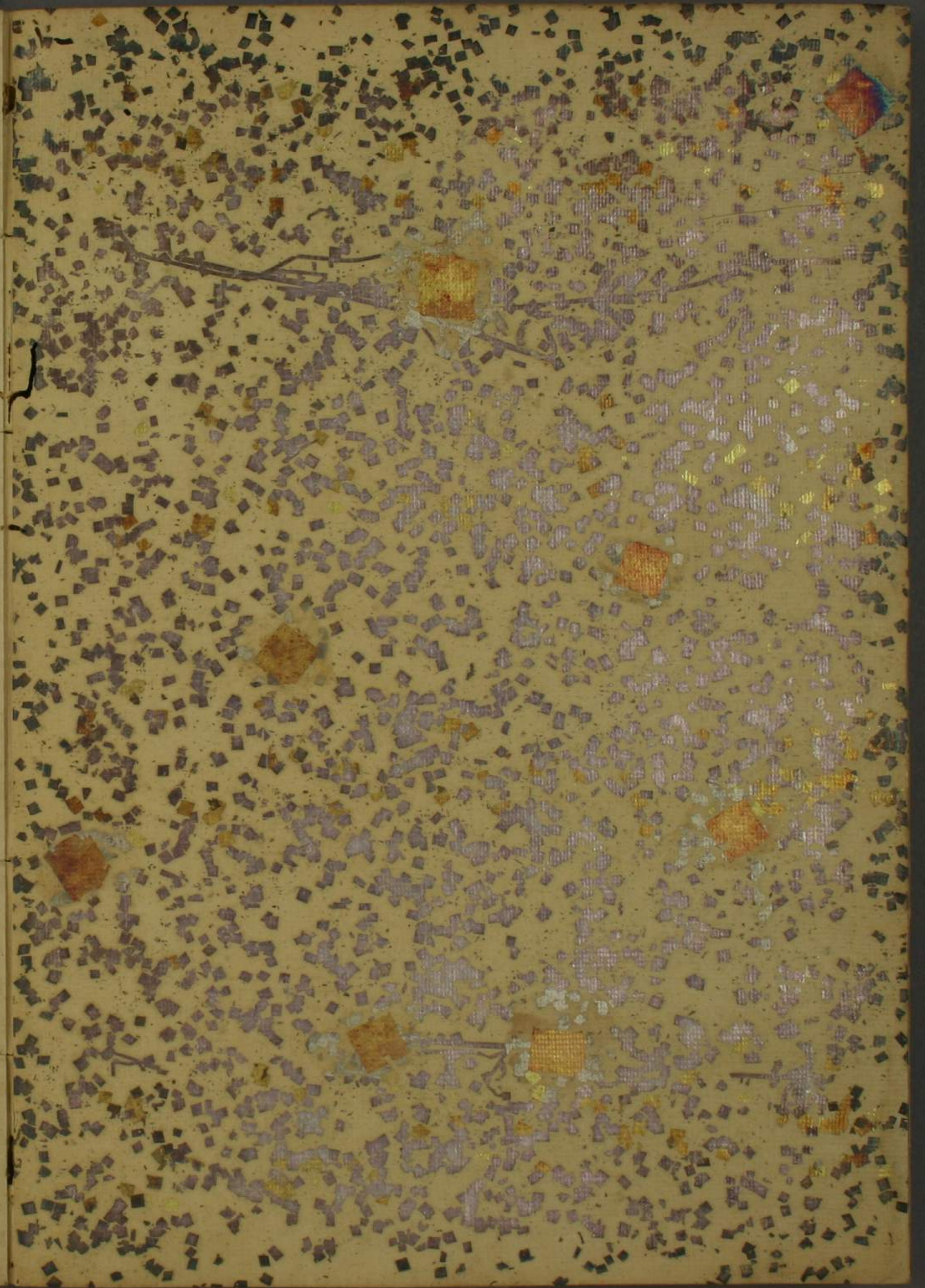


盤腸無底抄

わじり

特別
~ 12
1077
6





若紫

十七歲

十月叙三位兼中侍

源氏在癩病事

三月廿日為加持向心山聖坊事

菟山、河原望某僧初之姊在木原居事

御信人、物諸福國在取之河申出明在念

有柳事、小柴垣之間見、河見十一年

許女子給事

紫上乞之反表列
以第上介祖母也

偽勅事、若源氏在後山事、於姊居乙事

利
1077
56

傳於奉信源氏我坊事

僧部張戸上并姫君柳事

同時源氏對面戸上之次乞姫君居事

明日少山聖身加持并傳於桑條事

聖人身掛鉅傳却中傳物事

源氏を所是古戸上許也

頭中将厄中并以桑御逆事

傳於桑條并源氏彈指事

源氏君海京向奏上宿取事

又日向書少山戸上許事

二三月後又遣惟光上少山お約少納之乳母

藤壘文類病退出居事

源氏湯王令下婦齋通事

友壘文御懷妊事

あまがくは八甲おきも何れ居之

月よりよ多れおきも何れ居之

あまがくは八甲懷妊八月より九月あり

源氏見夢を人原事

友壘事

秋七月友童系内事

九月源氏之六条冬移、源故按察大夫院之御

家姫君介祖母、里也

十月年崔院行幸、群人、下沙院事

北山石云卒、去、
为九月廿日、

源氏宿業上京極家逢、打納云、乳母、

翌朝、於、路、使、随、为、初、妹、同、
け女子初

是、推、光、於、京、極、家、同、姫、君、事

源氏青損和、
智、帝、介、

源氏自出、迎、取、策、姫、君、上、二、条、院、

少、納、言、乳、母、同、京、西、射、寮、御、車、

姫、君、子、智、
源、氏、返、介、事

若菜

以奇為本名

奇原

ふはていばくも刀人は紫れ神
かよひけり野色れく草

美曰若菜と引つきくる洞のえの 秘原

原氏君れ奇のれつくくけ奇とりつて

春名とせり

くる紫としはくもくる洞のえの 秘原
としくる紫としはくもくる洞のえの 秘原
乃ゆりの洞のえの 秘原

よゆれ夕の海にて公のいづれうきおちしるる
人の水ありよゆれとまてあまらなるゆ
らりもふのこりさゆれとゆらりゆれ
とありゆれ十七年九月よりそまての
事とてさり

いづれいづれいづれいづれ

何巻以初

瘧病 ハルマシヤ 瘧疾 ニ日ニ交ス

瘧 ハルマシヤ 瘧 ハルマシヤ 瘧 ハルマシヤ 瘧 ハルマシヤ

日とせとハ瀾日瘧と云

秘 美病古暮切通作瘧久病 一日 美ナシ

小児口生瘡通作病

美夕白本河内院にて靈氣よはひ流る

ふりゆめゆふふらふ

美 ハルマシヤ 美 ハルマシヤ 美 ハルマシヤ 美 ハルマシヤ

杜子美詩乃手捉髀膝血と云ふと通て

七瘧ハあ家とさり加約ハ真言教院所

后のちとせ

秘 瘧 杜子美詩乃手捉髀膝血と云ふと通て

七麤ハたつりしりしにされハ五言は
 似たりまはハ杜子養ハ花柳初云子璋鶴
 體換掬手提擲還雀大まト以句之ま
 一まハ厭術ヤレテまりまハひりひ
 としハ依法ハまれし物まきまらふ海
 まとそりハ一まらてまきまら
 たらしくゆまハひまらまらひ
 又ハ重まハ鳥ハ日初月之てつら
 ハは物張れまハひかくれまら分初まき

七言

杜子養花柳初云子璋鶴體血換掬手
 提還雀大ま提別副使限子璋及以兵攻
 東川節度李真敗北於是叙南節度
 崔克遠卒其牙將花敬定討子璋既
 討敬定持切大掠肅宗因之怒由是不見懼
 用公作花柳初蓋痛情之也
 詩乃公ハ首と斬したとみりりれま
 かくれまら

手捉換還崖在更 チケテウチラスサイゲイフニ け点と月

手捉柳還崖在更 チケテキメラスサイ 心華点や江雲山語谷

け句点今鹿のおつら 秘云 物や又所洗云河ふ

人け句とて鹿とぬ 秘云 まよおらと杜も春

ま夕よきて云花柳 秘云 う初ハ過句之寒鹿法

ま一ノ一室の鹿ハ 秘云 熱之寒句とて三九法

句一其句よ云夜 秘云 深經我場寒月照白骨

け句よと則 秘云 け句と云

ま一山よま 秘云 北山 向南山

可 け句鞍馬ち昔早九 秘云 院よりなり此法盛地

河 秘云 なる院と云なり一洗と云日神云辰并よ

け 秘云 句もやまられ山路のけらなりなり

人 秘云 ぬとてまやとぬ人

け 秘云 句よつとてつらありハ志強ちと云

洗 秘云 之僻事と鞍るれつらわたり清少納云

枕 秘云 着子よんてなり

鞍馬 秘云 守事

四 秘云 院云法部大捕者なり伊路人相哉と云守事

道東寺行幸一圓形騎用之於鴨河原故
夫尋跡行堂北山奉孫昆沙門天始建
立此寺云云

^美水鏡云延暦十六年藤原仲房入山
貴船乃明神此山一山と云ふなりて
海ありや

新秘 くら海と云ふ

かこ記おこまひ人 ^美系圖此介の人

さう乃名と世よ ^{秘美}世より流布せし

秘帝よお家さ海也 并日

くまらまひ 因之け版ノ美傳なり

あてえいさうさ

美上の詞よらり月よ海 美の云ハ厭物
乃事やけ次の詞ハ世同と云ハ流
人よりぬの美や秘事ハ海 美の事
ハらうさいさうの詞ハ事ハ美七秘
屋そらびらさひ 山はれたまひ人の物
しておろく鹿とせし

三つううううう

秘箋

三つひううううう

三つひううううう

河 鳥殺世

三つひううううう

三つひううううう

三つひううううう

三つひううううう

秘箋 日

後瀬石多入奉加持即御平念う

免馳院痲病をいいせは治時天右府左

良源僧正とあらりしすは天元四三秋初

小野文右府託もんしり時人の良源僧正

構慈化仏聽聲并執杖河岡梨二人

其後又に任大僧正

ひありし

秘箋

三編の箋こ

三つひううううう

三月のけこり

河

やみをよむし自余の

月と因く定ある説き

山のゆくゆくはまゝいさうりいして

井 中 弁と川よ方なりしうよ時節なり

秘美曰

まろりしてれ秘美およはちとのと

里ハれらりいしてありと里ハれ守の

さくくはまゝいさうりなり

圖書よハ

あるのむらりけく^秘る^秘野れ山の

ゆくゆくはまゝいさうりや 変人

げ二者何よのまろりなり

今^秘の世よそくはのむらり秘れなり

なまろりなりと なる

りもてたはまゝなり

秘 東 氣 ぬまひなり

取せむらゆりなり

秘 何よひろくはんとい

あやほまろりなるまれ人の喜身がらりし家

あまろりて世なるまろりれ美也

寺れも

秘美

鞍馬寺昔ハ字ナ九院

秘 佛 法 盛 成 地 也

少れ若の申にん

何れ
公好んいふれ中よと傳くうのせり
うさいとれまことこころん

佛弟子須菩提住西天石窟美

吳苑云陳思王遊漢山忽因岩裏有誦

經声清遠窅々真使解音者寫之為

神仙之声道士知之作步虛寒山詩云

余家有一窟 今中無一物

あま〜とわ 秘 神の初や〜けな終

一日り侍〜とわ 傳〜ひきりた〜とて二日

あ〜けうよま〜とり〜事とせ

きん〜れお〜とひと 何 孫方〜出た〜ハ候孫と云

美候孫〜中書孫名外〜とぬつ〜いさ言

乃中〜こめてハた〜とせ

秘 年老〜ハ現世れ新術〜ハ中〜とせ

後世のけ〜とめ〜と中〜ハま〜ハ候と

私云美〜ある但け世の〜と思〜後〜ハ

といふ〜河〜とわ

大とこたり〜

大徳

身
美ノ欲カ如
内ノ不調カ
カナルノ力
ミナ加カ
テ内カ
洞カ

身ノ欲カ如
世俗ノ欲入カ
何ニ少人バカ
身ノ欲カ如
身ノ欲カ如
身ノ欲カ如

世俗ノ欲入カ
何ニ少人バカ
身ノ欲カ如
身ノ欲カ如
身ノ欲カ如

何ニ少人バカ
身ノ欲カ如
身ノ欲カ如
身ノ欲カ如

身ノ欲カ如
身ノ欲カ如
身ノ欲カ如
身ノ欲カ如

身ノ欲カ如

身ノ欲カ如
身ノ欲カ如
身ノ欲カ如
身ノ欲カ如

身ノ欲カ如
身ノ欲カ如
身ノ欲カ如
身ノ欲カ如

身ノ欲カ如

佛日影後衆生之心水謂加衆生之心水

持佛日謂持

私或人云衆生之心水清淨なり時佛日

光自然よりほるあや

傍房

傍房
佛日影後衆生之心水謂加衆生之心水

佛日影後衆生之心水謂加衆生之心水

佛日影後衆生之心水謂加衆生之心水

穢深 九折

般若折ニシヨ

通叢巖

白氏文集

遊悟真寺詩

以上 何羨 我々

にあり 二葉うれし 并 多あり 多き海よ

りて やさしく ありて 秘 傍初れ 房

乃き 由き ありて 然き 海也

さし げ あり 傍初れ 何 屋廊

ま あり 乃 傍初 羨 紫上 海の 契 危 年 祝

何 兼 花 抄 法 上 聖 見 丑 傍 初 之 山 小 傍 初 也

号 之 け 羨 乃 換 之 秘 羨

大乃 二と せ 秘 羨 三年 禁 足 成り また 也

公 あり 一 ぶ 人 海の 詞 傍 初 之 之 之 之 之

何 あり 傍 初 之 之 あり 然 之 之 之 之 之 之

羨 秘 源 氏 の 女 心 して 之 あり 海 之 傍 初 也

何 あり 聊 余 あり 然 之 海 之 傍 初 也 之 之

之 之 之 之 之 あり 之 之 之 之

羨 曰 之 之 之 之 之 之 之 之 之 之 之 之

之 之 之 之 之

之 之 之 之 之 之 之 之 之 之 之 之 之 之

又尾をれこの女とていふもや 秘 尾の
女とていふ成り

何うもてまうり 岡伽

岡伽ハ梵語ヤ佛おと清けり水ノ宿の時

よ必留物くけけり水ノ湯気のまうり

醫書ニハ井花水とて

花あり 美時花とてけりの花は花

かこに女らん 美酒は花は人てこり花

花は花と前りてけり尾をれ女とていふ

きこえり

とりて花とて 花は花は花とて

女とて花とて人て花とて

くんとていふ

花とおとまり 源今酒をしの酒

日と花とて 秘おとまりは花とていふ

あまハれうぬまのあま

そりていふもら玉

門前林水後秋山流日葉と咲りて用 本

^秘 海の立出流したりと傳へる人あり
一 樽山一 ありや

の成りよと心人 ^秘 海は河也

ふれいし河きく なるぬ人の河に流る事
是ハ良清く河をき

松云只流とそうて二流を

人乃國 ^美 化也

^{秘河} 他國之異物ありは河に流るや伊勢地
信よ人れ必とてもれなるや人やこも

いしき家と云ふ河

河之いしき ^{秘美} 海は海とてはしきとて流

ひしきとてはしきとてはしきとてはしき 并日

しきとて

なるしきとてはしき ^秘 なるしきとてはしきとてはしき

河に流る事とてはしきとてはしきとてはしき
一とてはしきとてはしきとてはしきとてはしき

^美 なるしき ^秘 大率人遊焉

秘弁 花の美て花弁

うら河よ海さうりー 秘は雁意皆良清く物造也

美日 美良清く又ハ希播之也之國ハ美葉

私云又あーの國をいりり良清く物

決とらんくまきれ

ちるま、あよハくりぬれあーしん 秘は雁意皆良清く物造也

花人而更良清く物造之良清く播磨守り

子なりたよてあのみあさくくさむらや

私云我前ハ美秘一

美 浪平明石乃多事そくまきと下詞の序

いりり少さくぬハ 阿曲隈

美 美ハひらきぬくひれ字一釋ハあこ

こして河んハ一りり武美ハいりり 可寛ハあこ

美 秘日

私云何れ子乃こりりさう高きう海乃

おしてのひらき神とあさねとあさ

いりり少れぬとハこれりりさうと

かたふのうれかき 美秘播磨守日也明在令

とや

素から 何 新教いふ〜めて秋田は人の足

宿初教公の義く物より新教を喜蔭し

いふ〜

御堂用白出家〜していふ殿もまき

あしりり 柳家の人と入信といふ〜

りて多田信仲といふ由の新教と其

はハハゆり 上美秘あ抄〜

家い〜 美河〜

秘 といふや

事〜り神と云 上一年美也曰

大信れなめ〜 美秘 垂相の後胤とて

乃昇進とて運れ人〜の石入信事也

と〜ら 何身の出力や力と〜とて出た

〜りび〜

ふのひら物とて ひ〜らお〜

近清中おとと〜 中お〜

新よあるくさいを清とすこゝ國ちり
る人事ハ風を念のる成——さけ
世人よふるひらうとひらゆとハらり
美 介清とさとのこらりあつてさうり
たさく——くさやわんと中あつら
ま——よ況介あよ近中中わともさ
ひらりゆや 美曰只温職をたあつち
私云温職とい得分の其よ官よ
史ハ今ハ代れ代友うといふ

近衛中將任國例

河

藤原實方朝臣 長徳元年正月十三日
辞九中將任陸奥守即日還昇ラッ以外
例概可勘

秘

山蔭中納言辞中將任備前守下向也
見五代實錄

美曰実方ハ配流れぬ之例あつて
山蔭中納言の例也 以上美ノ美後
わゆりさう山をみと 奥 文選よ

奥のまよとくさくといふあり

繡雲奥

こらしふくはれん

みはよいてわらひひくく

西日なまよとして朝家入るまらやとあり

かうかうふまよとくさくといふは海か

りま海をひらみまよと

けふのまよとくさくといふは海か

くさくまよとくさく

私云是くさくといふは海か

くさく

くさくといふは海か

くさくといふは海か

くさくといふは海か

くさくといふは海か

くさくといふは海か

くさくといふは海か

くさくといふは海か

くさくといふは海か

身年ぬとるまわ

^秘京までとせ世はまうらひとまはれしは

はては國のちなりよありてはめく

とみなりは

ろころとみはに ^河幾多 ^昂一幾同

若干 ^日分れ

さいりしと 身人あまはかつたしをいひ

しきひらよ餘をわたりしを ^秘國の

ころころとあり公はくもあはれ

^美上乃ほかづれては物とみしてしめ

さここのせとあ ^秘美師の回経 ^美明名を

きしりいはり ^秘良清の也答せ

伐乃四れつき ^美播戸の國目と云む日

一任は年とてむ日とめては五年あり

らり事なれは伐れつきといふあり

りふらげひん ^秘徳もちの一日は

かゝるあり伐しと云ふをこれ任よあは

人らりしとありと何事ともひらぬと

我乃れくわうくよ ^秘 今の我乃れきつじ
申さくわがうき

これ人のひり ^秘 けしあふあふとくこいあふよ
好くしとく

思ふ心しとく ^秘 け今もあふきあふん

しりして國あふしとくあふしとくあふん
あふしとくしとくあふしとくあふん 今もあふん

あふしとくあふしとくあふしとくあふん
あふしとくあふしとくあふしとくあふん

とあふしとくあふしとくあふしとくあふん
よ入社とせ

ゆいふんしとくあふしとくあふしとくあふん
遺言よ、けしあふしとくあふしとくあふん
の心からわくとくあふしとくあふしとくあふん

あふしとくあふしとくあふしとくあふん
海龍とせ

^秘 美只海よ入社とせりてあふしとくあふしとくあふん
ありとせしとくあふしとくあふしとくあふん

りしよよまよんきあ申せ

松云の夜乃美畧

河ふじとめ 帝よりのことごとく

井一禪河ふじとめ

かくひの ^{秘美} ^{うん} ^た ^り ^の ^事 ^と ^ま ^し ^し ^ん

く人なり ^河 ^巡 ^給 ^也

正月のむれ叙位よ六位 ^{秘美} ^{うん} ^た ^り ^の ^事 ^と ^ま ^し ^し ^ん

とて後五位下よ叙せし ^{秘美} ^{うん} ^た ^り ^の ^事 ^と ^ま ^し ^し ^ん

とい爵力の ^{秘美} ^{うん} ^た ^り ^の ^事 ^と ^ま ^し ^し ^ん

秘美今年巡爵よ河のりて ^{秘美} ^{うん} ^た ^り ^の ^事 ^と ^ま ^し ^し ^ん

爵せし

入道の心いんや ^{秘美} ^{うん} ^た ^り ^の ^事 ^と ^ま ^し ^し ^ん

いん ^{秘美} ^{うん} ^た ^り ^の ^事 ^と ^ま ^し ^し ^ん

み ^{秘美} ^{うん} ^た ^り ^の ^事 ^と ^ま ^し ^し ^ん

あんと ^{秘美} ^{うん} ^た ^り ^の ^事 ^と ^ま ^し ^し ^ん

い ^{秘美} ^{うん} ^た ^り ^の ^事 ^と ^ま ^し ^し ^ん

又 ^{秘美} ^{うん} ^た ^り ^の ^事 ^と ^ま ^し ^し ^ん

り ^{秘美} ^{うん} ^た ^り ^の ^事 ^と ^ま ^し ^し ^ん

ひさしとてさうあり事ハ何れとてひさし
まへに女おめいも人たわりのさうひ
めんひしうみさうく

私云きさうひも人いひさしとて
ありひさしとてさうくして
花は美 思ひ

ほしとてさうくもれ 秘 長清の詞
系圖よハ誰とてあり 并 長清もよ大井也
心算明親王のともあり 并 長清ハかめ清女
よ准してさうくよあり

秘 美の石上れ母族姓種ハ人ハ長清も
かきけならまへ人よあり 何 長清

後々の國司の事ヤ一素麻ハ美字とて
う見えとてさうく 并 長清
ゆはたと美し

秘 美しとてハ美れ字のあり 何 長清
のれけうけいゆは自然を法なる國司か
とありハ合なれども色揃せしとて人あり
ゆはたと美字とのきて 并 長清

私云人かりゆつとこいふ事なむい人國
司よ成てゆつとこいふ事なむい人國
表何公けりて 海へんてれあよみ成り
一くきりて海の底に居て秘せし
く海よりけりぬとひりよせ
秘はまのまじをたかろめとろくは
せしとろめとろたか

井 **秘** 美 けり方ありて

多きり 一人は海に居るよ

とてひりて海 **秘** 深はちとれ録の人よ

らひりて海公されははむとめとろたか
海へんと人の指考して思ふ也

たう坊語を **秘** まよひありれ海に流り
ら海へりて虎とわくせ活ぬ **美** 膚
のあらうりて活定一て也

御地乃事なり **秘** 美 海にけりまろく
おれた鳥をしりれうろとぞもくてこ
とたうせけりて

かみ旅社と 原の年やううりて面白
く思ひませ

目といふなるも ねむりもあつた
ひあんとわれはねむりもあつた
いふりかきみうらやほふて

^秘かみ旅社とてききひ原は心はふ
^弄まよ坊やありあつた人あきき
て夕ぐれのかきみ家よむらいてま
月をいほふ

かりききれ 前ようういほ坊や
人かき一ほて 乞入原の月とさう
みたもてあて 寺いりるいほ坊
ねむいあむうら
ちのよもてまうて

何
持佛

幼年のうらうら一ほよもあてあき
いほいほいほいほ

おいほいほいほいほ 偽り妹堂上のねむ
花あてまうら 前ようういほ坊や

中乃る〜
尼也

字乃る〜
服也

い〜
けらう〜

かみ乃る〜
室尼

十乃る〜
世よ

白さきぬ〜

山乃る〜
おのた山

〜
〜

みい〜
物

た〜

因事〜
子

〜
〜

か〜

業〜
〜

何事〜
〜

取の〜

子〜
〜

産乃子〜
〜

美河上東門流りうくまはよはるあり

何 羊花抱持よるてこり

け物持よと何てささるれすいさとのさか
り字こ又ハ君れ字こ世俗よお存さおん
きうししよハ姉君伯母君よ云公内裏
女房れ結妻よ上臈よハ何れ為中臈
とハ何君とかゆとこ

鳥あると阿佛房とわかれう五名氏
比ねう縁までこハけうりて何れ障子

何げていんともきり射よ何仏房障子志
口をさきて一着何そりいん時何人
といふは鳥氏つとり何とあし障
子よめらしむ

あしはよいぬさうかひに花れよこひ何の
こやうしと思ひしとら何れまきり

あせこはらよ 井 多と入家能よとらあや
くらあしとたれ け業の持こ

こねのうらおきふ ちよたむか二入とるけ人
がゆき

まいたをさ

おまこときりつていしつ納を

さいたをさ

可 罪をさ

いはさく

雀の事せ

少納をれ失のさる秘はさとのめれんが納を

めれとくふのよと垣うにほれさるせ

さそはさるせうらさるせし

いあかたされや 厄云はさるせし

とれりきふあさる 厄云のうらさる

けみりふ事と

可 龍撃飛鳥

何 持戒空比立厄不

秘 美涅般未經 亦四 金剛身品 持戒空比立厄不

得高養奴婢牛羊冰法一物

おまるとん秘 二とくはいはるは

ゆしと さまじり景上の海

はゆれさるらる秘 さまじり

かきさる

たされよけのさるさる

さるらりてかきさる

是 羨 花ノ流る

^秘花乃流るる海にうきとしかかた

ついで何よりうきうきと云ふ事な

未だまじりたる

何のいかにあり ^秘さういふ事なふり

似たりあり

公とけり ^美なつ下も似たり

は東上れらるるなつ下と兄弟なれは

と景といふとめい ^美日

海よりわたり ^美海にゆき

何よりききみなり ^美さうなる

やありききん ^美なり

うし海にけき ^美花にうし

乃ゆき ^美なり

かたり ^秘花に

十 ^美なり

れ ^美なり

こ ^秘花に

殿とくれ秘 按察大御言よとくれゆり

私按察大御言よとくれゆり

海とゆりま 尾云れりゆり

尾云れりま 海の心

たくれゆり 業

しりゆり 秘

私云ゆりまゆり

ゆりゆりゆり

かみげやくと 可 嚴 又光

尾云

たひり人ゆりまゆり

可 秘 弟 日なり

我身よとせらるや

け奇とにありれ 云 秘 美花ゆり

ゆりゆりゆり

私云ゆり人ゆり

ゆりゆりゆり

奇 又ゆりゆり

ゆりゆりゆり

その節に

ふれあひのさ海よりうらやまを

ふりまればひりまをさうぬいひてさうぬい

秘

美あー 美曰生ひ来しこころをさうぬい

いとくれまよ眼をけくー

れ云たよ作摺地信成りまればあり

らーよのうまをひきりある

傍都れあささーり 秘 美曰よあましよ心も

傍都れあささーり 秘 美曰よあましよ心も

ふー ともうーい けつせいのー 葉れと源

れのもうあひー

ふりまればひりまの 美曰はれ見よけ

あふいーや 尼公の詞

この世にわーり 秘 傍都の詞世にわーり

ふのまうこまをいよ

いしてせうらうこ 秘 傍く傍都れあましよ心も

あふりあふ 傍いーりあの坊へゆまよ

あふりあふ 秘 傍のあふりあの坊へゆまよ

あふりあふ 秘 傍のあふりあの坊へゆまよ

正致物り公れまののりまふり人
ふとありんた

まらうたあふ 二れまといふ人

まらうたあふ 二れまといふ人

まらうたあふ 二れまといふ人

まらうたあふ 二れまといふ人

まらうたあふ 二れまといふ人

まらうたあふ 二れまといふ人

傍れま子使り

まらうたあふ

まらうたあふ 二れまといふ人

まらうたあふ 二れまといふ人

まらうたあふ 二れまといふ人

まらうたあふ 二れまといふ人

まらうたあふ 二れまといふ人

まらうたあふ 二れまといふ人

まらうたあふ 二れまといふ人

まらうたあふ 二れまといふ人

まらうたあふ 二れまといふ人

まらうたあふ 二れまといふ人

ふみかしの年やいふ海に世俗よひ
しるしこふくせいのこへ

おしりよき〜ぬ〜いよ秘 敬つく解の
てまよふよ〜

らま〜く思ふはて人 何憂

なすて糸へよと傍をとるひれぬと
らま〜く思ひしう〜人〜て〜

弟れぬせ〜らと

いぬ〜のいものれな〜はぬ〜弟は〜らと

天古大原れぬ日よ暮る傷正泳せぬ

子僧贈一心や 草庵 弟は 日幸を

いぬ十日日 海の初ゆのまいぬら〜

と試う何〜り〜と〜む〜い〜

かぢ〜ぬら人れ〜ら〜ら〜ら

効疾何〜子細何〜ら〜ら〜

ひ〜り〜威徳〜ら〜ら〜思ひぬ〜

ひびくことこそは源氏用意ありて

後をねていふは 偽秘のまじりて

つらきこと思ふはつらきこと

ことまじりて是よりしてや

まじりて偽秘 秘 偽秘れ

いふことあり 源の心

いふことあり 國を偽秘三年

いふことあり

秘 玉材よりきく 次源より清く

はらよ 無切に 秘人より

かろきことあり 秘 前より偽秘の

乃西よりいふことあり

あつらひて偽秘に

いふことあり 御出の

あつらひたり 偽秘の

いふことあり 不審

業乃事よりいふことあり

いふことあり 偽秘れ

この世にこそおぼえしけり
いとわづらひしはまのこころ

あはれなるはまのこころ
いとわづらひしはまのこころ
いとわづらひしはまのこころ

あやうき世のこころ
名香は香せ

^秘 仰よこしてまつる香と名香といふ
牛頭梅檀をいふ名あつる香といふ

世れば縁ならぬ世にこそ
身は時信の河津

や 秘日

源よ世のつねなる事と流さるる世にこそ
やとくして信ハ信よ射してハ必ず常法
理と信流するを礼義といふ

はらきかたれ 世の中は是れ公世なるの
私云只わづらひしはまのこころ

はらきかたれ 世の中は是れ公世なるの
私云只わづらひしはまのこころ
世にこそおぼえしけり

友下のゆふゆふとまきまきなりん世れ昔や
らの早の感一して好世れ飛ハ海一ても
き(若女)一とと也

^秘 渾れまうして我身方のうくと思ひのよく
か海と海井と 渾れまうしてまきまき
ひ家乃あけ ^秘 のまき海井のよくまき
まきまきの海ハ 是より渾れまきのよく
初よまき海井 ^秘 渾れまきのよくまき
はくりまき一入海

夢とて海井一と海井まきのよくまき
まきまきの海井一と海井まきのよくまき
実よまきとて海井 ^秘 海井
うらまき一ひて ^秘 海井

多つ海とて海井 ^秘 海井
初のまきまき海井 ^秘 海井

故按察大納言ハ ^秘 海井
^秘 職原云隆興者上古以来 ^秘 海井
其國境廣 元明天皇 和銅五年九月

分置^{ワキ}出羽國^ヲ元正天皇^{ケイセイ}養老二年^ニ置^シ梅
案^{アノ}使^シ令^シ監察^シ西國^ニ中^ニ河^ニ陸^ニ奥^ニ出^ル梅^ノ案^ノ度^ニ
これより、梅案の北方はと乃厄之傍部の
妹也

重^シに^シ梅^ノて^テ社^ハ秘^ニ傍^ノ初^ノ林^ノ禁^ノ足^ノす^リとい^ハ也
傍^ノ初^ノ林^ノ禁^ノ足^ノして^テ重^シに^シも^シ出^ルひ^トは^シ妹^ノ厄^ノ之^ニ
の^ニより^テ梅^ノの^ニより^テなり^ナる^ニなり^ナる^ニあり^テ厄^ノ之^ノ出^ルは^シ
また^ニの^ニより^テ梅^ノと^シ也

か^ノ乃^ノ大^ノ納^ノ言^ノれ^ルは^シと^シ也 源^ノの^ノ同^ノ秘^ニ何^ノも^シ也^ノ

と^シて^シく^シも^シく^シた^ハハ 好^シ色^ノれ^ル公^ノよ^ハハ^シ河^ノす^ト也
と^シて^シて^シ也 亦^シも^シ案^ノと^シ厄^ノ之^ノれ^ルは^シと^シ也
し^シ思^ヒひ^シ多^クし^テあり^テの^ノ出^ルは^シ初^ノの^ノ也
む^シと^シあり^テひ^シり^テ也 是^ハ厄^ノ之^ノれ^ルは^シと^シ也
い^ハひ^シり^テ也 是^ハ河^ノす^ト也 十^ノ余^ノ年^ノより^テ也
と^シれ^ルは^シ案^ノれ^ル母^ノ也 是^ハ河^ノす^ト也 又^シ梅^ノ案^ノハ^シ河^ノ
大^ノ納^ノ言^ノ 梅^ノ案^ノ也
河^ノす^ト也 中^ノ人^ノ 案^ノの^ノ母^ノ也 又^シ梅^ノ案^ノハ^シ河^ノ
裏^ノハ^シ河^ノす^ト也 是^ハ河^ノす^ト也

かゝるに河をさ 一膳さうしついでに

とびつゆはは 女と肉もてまうつぬさ

まに梅家れんうけくぬさうし

昔のこれ宮好ん

^秘し女よハ式うらへ 業上れ又又へ

しれ少方 ^秘 女其まらとせえりうし

^秘け人の本末よんてふり 勢上れ少方

の母之業上を後まですりうつぬさうし

なううりゆりあり 山家の母君へ

物事ひなまひはく 井法師の初しんさり

^秘偽教の初身あり 法師をとい物上貪まの

なまあうとさうりせ

あつハ多のこ 源の公尾云れすし 業とされ

く強とてまげうし 昔のつまは有重楓兒か ^秘日

えこれ由とらひて ^秘 昔のつまは有重楓兒か

ましく業とをれとらひて 細くひらうし

ひびく海のか

人乃かとも ^秘 人うとらひて 云えく 下海のか

何よりひれまの尾をばし〜もやいふこと
されつゝしたちきうり 秘 海公前より〜のよ
かりかりとあり〜何せの〜ありて
は治定〜うみせ

何や〜事なれと 傍初〜に致すか
まはつ〜あつ〜ひらう洞窟(海の内)
秘 傍初よれ候し海公ありてと候きりてひ
しりま〜い〜人〜ひ〜て〜
ま〜ひらう 秘 未又あま〜みま未の

花 げ姫高ま〜せ〜られ〜命ぬ〜
はひれいせの田ひ〜して候中〜人
ま〜い〜の〜ひ〜
候〜い〜の〜
い〜い〜は〜の〜
の〜ひら〜い〜
う〜ま〜せ〜と〜り〜
は〜い〜
秘 傍初の内
ま〜い〜
ま〜下〜

さしつせ

ろもく 作く前より事ごとくしてはるる

押成字の則とていふはし^秘 何れも傍社の詞

女人ハ 傍社の詞めさしり

うり活物なれハ ねまハといハ物一やげなり

いふ屋りの詞せ

かひたしハ方 おはハ紐母之者めしり

うり約てまこてまきん 紐母とて是

と源一ヌーとんとつと

そくりたつて物こり

傍社の詞とて

ろくさつ公らよ 源の公

何れハ^{キナ} 傍社の詞

ろや^{キナ} 初東の所

とくして 何れ院堂れり事とて

山凡ひや、久 昇 善去山中のさ^秘

籠れり^秘 みもゆりて 何れ方より及ん

あよ籠の者ともいふと 山中一夜雨樹抄^秘

ヒラナク

百重泉をいふこと——可^レ定^ル泉といふ
乃事也

龍れりしみのゆき家といひしとてさう龍ぬ
よりのゆきりてきれしとていふは
くくとり

秘^レつ^レけありに經 須^レ知^ル也 弁^レ吉^ノの^レ何^レ也
純^レ經^ノなり

秘^レ私^レ云^レ倒^レ付^レとしていふことしむ
ま^レつ^レあり人も 公^レ公^レなる人も

何^レしてたもかりありに 何^レれ^レ也^レは^レ何^レれ^レ也^レ
と^レき^レき^レき^レき^レに 念^レ持^レの^レ服^レ甚^レよ^レり^レ也^レ
何^レれ^レ也^レは^レ何^レれ^レ也^レは^レ何^レれ^レ也^レ
何^レれ^レ也^レは^レ何^レれ^レ也^レは^レ何^レれ^レ也^レ

秘^レ何^レれ^レ也^レは^レ何^レれ^レ也^レは^レ何^レれ^レ也^レ
何^レれ^レ也^レは^レ何^レれ^レ也^レは^レ何^レれ^レ也^レ
何^レれ^レ也^レは^レ何^レれ^レ也^レは^レ何^レれ^レ也^レ
何^レれ^レ也^レは^レ何^レれ^レ也^レは^レ何^レれ^レ也^レ
何^レれ^レ也^レは^レ何^レれ^レ也^レは^レ何^レれ^レ也^レ

君のまじりまじりて人をもつるも
みひらくまじりてまじりて
ははれよあはれよ

まじりてまじりて **并** けはれよあはれよ
仏のまじりてまじりて

^何 従真入於真永不用仰谷 **法苑** **秘日本**

うらまじりてまじりて **少納言** **秘**
けはれよあはれよ **少納言** **秘**
けはれよあはれよ **少納言** **秘**

^源 初葉れより葉のうらまじりて

^秘 葉の上よりまじりて

私云露れをまじりて

まじりてまじりて **少納言** **秘**
神も露れをまじりて

まじりてまじりて **少納言** **秘**

まじりてまじりて **少納言** **秘**
葉の上よりまじりて

物一箱りぬき後ハミナリ一り一り五つと
傍箱もちここの中箱造りしきれぬきここと
ありきわつとハ大いハミナリしてはり
といふ傍箱れちこころ一り一り
とのりころつちりし
海の小れ流ハ公りら何んとぞひ流と
少細えよれよと
いりてこころ也 如流りもわかふひつ
あか軍あり一 厄ふれ河

くひいふ家程よらと并し程こころや附
一いふ人とし
き海とてハかれみゆと 秘 花あよこ
海氏音の小は頃れこもみ一物よと
祖母れ厄とのみいさんありかここと
みゆるといふとみゆると海氏の音
ら一箱て初箱のちり葉の末と人ば
しりしれ流ると厄ふこれとみゆり
ていそとみゆると何や一とぞひ

おん家のいさしりせ

やま書はあはとほれたとあしりて人として思ふは
思ひ又たひさしん何りもあはぬま
こゝろとあはりさしひいと記さるが
く知はぬんとして又たあはしん
あはちりんとあはちりあはちり
あしてあしりよ不審とあは

いさしりあは 前のあしりあはしりあは
あしりあはしりあはしりあはしり

てハ曲なることあはしりあは

^秘 符とあはしりあはしり

^此 松のあはしりあはしりあはしり

^年 あはしりあはしりあはしりあはしり

あはしりのあはしりあはしり

^親 奥山れ若の衣いさしりあはしり

あはしりのあはしりあはしりあはしり
あはしりあはしりあはしりあはしり
あはしりあはしりあはしりあはしり

松
まきこしは様ひのいこひひらけし
しり山は乃神と昔もまきこしは
乃美辨子同し
ひらきりゆり物とし 松 川あがし

冬まはいとひは我神は宿願あふまきこし
け奇くねふはまきこし
松
まきこし若はい河とあけぶまきこし
しりまき乃神よまきり 古奇あふまき
ゆらんし

松
松まきこしと道逢りてまきひらき
かやれ人にて 松
まきこし並よりまきこし
松
松まきこしと合まきこし
松
松まきこしひらき
松
松まきこしとまきこし
松
松まきこしとまきこし
松
松まきこしとまきこし

まゝあると何れも今れ世のよきある
はしきひき事されは給ふ事く又
らうういひけりひよ何いまの世
けまう現とさうく研明ありせ
二とひひらとの字あや
らぬなること秘さくまうぬんは
けふうやう人秘うらまへありん
として厄云り出まへく
うらばまひ何いんうありと

^事一 禪師の観ましさもやとるも同答詞あり

とつけてみるく
秘源詞心よハきことハ源其我れ心よハつれ
なるん屋うあせおれぬとく何あきん
うハ何きくうれいぬれ

仏ハものつとして
表よま佛乃れ心くハくういよ入てきまに
ぬふはうある物としぬまう又仏
ハものつとしていんうれをきれ何きし

うきぬハ仙と目録よりカクシ
^秘 ころ身れあましくうきぬの
キハ照復人多くよとやとの
ふて懐きうく一厄公に射して
えうらいて活ぬとく

けふたのい活なりかこい ^秘 戸公の
活れらばけりたれ活く
ところ活くおひけぬ
半うき是かき由ては
けふたのい活なりかこい ^秘 戸公の
活れらばけりたれ活く
ところ活くおひけぬ
半うき是かき由ては

うきぬと目録よりカクシ

あましくけりたれ活く ^秘 活れらば
かろ活く ^秘 葉の母れとや

かろ活く ^秘 葉の母れとや
てんとお活ぬとく

いふひき活れよりひき ^秘 活れらば
^秘 活れらば ^秘 活れらば
たの ^秘 活れらば

おあ ^秘 活れらば

源氏をいれもまたよさられ流しにさくひ
よなるをせまくとれ流し

秘

しに業を母よさくはうれし流しにさくひ
うれし流しおれいひぬく

か流しり流しりくくくくくくくくくくくく
てんくくくくくくくくくくくくくくくく

たがさきんあきと

秘

いとうまき

いとうまき

いとうまき

いとうまき

いとうまき

いとうまき

いとうまき

いとうまき

いとうまき

いとうまき

いとうまき

可せうたがしんくうて 可
 いえあれあきうし六柳のうさきうあ
 松云これ何とあそくあかしくりき
 案れいんげなをいり色何柳折んく
 知れりさきりれあよんせう様せい
 三語ひうとにいませ
 田方語家い海とわろ 海とわろといふ
 のなれああよのいんく
 あげたとい事とあましとて 秘 厄とあ

うらとびていん語いぬ

松丸傳のむとさく海ありく
 そりけたりくおまハ 増劫れ堂うりく
 いしより海をみちれいん語い
 りくあきこいれあぬまハ 海は海とての道
 とくそ海より 希よ屏凡れ中とすに
 ひんい何げてもありそも同く屏凡れ
 晴くそ気さといなり 希よ初夜といひつま
 夜いしりあびてとありそ後尼云し物流

一法つる所とす時流りる所新之

かけ之時たふあふりるせやう 法苑珠林

三昧ハ梵語也云々ハ正多といひ又ハ正見

と云りく又法苑懺法ハ南岳ハ智者

大師おこぬふ取の法門也

松云懺法ハ六根ハ眼と懺悔一して法

律ハ海と云りしと云義也

止觀ハ四行三昧何りハハ心行常行常坐

半行半坐北行 北坐ハ懺法ハ天在存

或況道武に方り法ハ六時ハ六根ハ眼

と懺悔と云り法也

原 僧侶云ふ山ありハ後まあるがみりる

多れ乃と云りれ 義あり

松云因法ハ却てよりき世に及もさめ

感をもせしきりる海あり下ハ似合

と云りる法を西白也

きりらみよ神ぬしけり山水よとめりるを

何りふやハすれ

何
さういふ事なりよき事なりといふは
源氏れ後りよかぬ能れとてみ給つよ
ついでに所々しよ神めしき事ありとい
傍初れ迄ありよみ給ふことありといは
さいふやいといは傍初め我が事あり
ゆてみされゆるといふこと耳されり
能の着されは山は方かんとさかぬとい
つらゆくとあるよ二着るは源氏れまの
ありといふ事ありといふ事ありといふ

傍初れ事とてみ給ふ下の初年され
ゆりよかりやしきこと給とてきり
私云花名よよきをせし給り
源氏れ美奥よ源氏
花よよきと源氏れ方ありといふ事
傍初とてゆりて能れ
秘
傍初事とてさういふ事ありとて我が事
なまはゆりといふ事ありといふ事
の事とて始ては源氏れ始のひききとて

耳をええ人何れなるか
あれは何れなりきり
別約りふりや
私云二角は
あはれなり
初りなり
明りなり

乃章氣思ひやりて
こころを
あ

みまはるる

名をきぬ本草

白氏草堂記云
蓋霞其上緑
陰蒙々未實離々不識其名
四時一色

みまはるる

何れ補集

花乃りけき
あ

春山秘の

あはれなり
あ

護身
心字
護身法
ありあり
二淨三業
二佛部
二蓮花
二金剛
二祇甲

ひよりうとんをえとねと 秘弁 佛部の坊主なるが

可 護身

かきつかりなれ 可 ひりりなれなれ

何よ蓮花のぬれハ粒をきくひらめるとハ老

人乃いこれ潤子よのささかり公を云

何くれなうらまそ 秘 今ハ印之なる人

東屋をよもし何り功コウハ漢音ゾウハ異ハ音ヤ

私云董修乃功ばもり カシ 宿酒をくり新と云

多しにらみこり

可 酒花ハ梵語ハ酒花ハ漢字ヨリ云と翻す

をさうなつら 酒のおりたおらうらや

らたえぬさぬれぬれ物 佛部のいさる地物

多し就まへとく若れうこまそまそ

れきしな

あしうらりぬらひ 秘 佛部林堂にるや

あしあもは二とせと何り三年位山ぬれ

山木よ公とあり 秘 源の河

うこいびきハ 秘 二れうらうら

後これ等の有りこゝろに 花はくぬきよ
もたひきんとく

^原夫人よゆきてこゝろに 山はくぬきよ
こゝろにこゝろに

并 ^秘 函玄はくぬき

めと何やゆきよ 花はくぬきよ
かめていまはくぬきよ 奇のこゝろに
もてあゝとありありめとくぬきよ
信初れよめゆせ

^{信初} り人きれ花はくぬきよ
めと何やゆきよ

^何 天右優曇曇花者三千年一現之則金輪
王出 ^云

文句云優曇曇花者新云鄔曇曇鉢華翻為
瑞應花金輪王出海水減少金輪路現此華
乃生金輪王之先兆云無量劫瑞花似蓮花故
云疑云法華元量却難聞譬如靈瑞花
者所以若三千年此花現者何為靈瑞華

答云一義云此花開時方曆三千年毎
三千年亦云出現

案之優曇華八輪王出世此瑞之故号靈
瑞花人壽八万歲時金輪王遠四列其時
海水半減よりなりては花出現するは
元酒氏と約えりなりはくは河にあり
て一多ひはくありしわつとは花の冬遠
時一現の心

秘

優曇花云瑞應 泥涅經云圖淳提内
尊樹王名優曇華有寶五花優曇鉢
樹有金華者世乃有佛

かきとて 源のさゆや

時有りて一多ひはく 源の初

并
未だ傳教の奇ハ瑞王出世はかきとて源よ
りてととと源は早トの公王ハ世に
あしてととと云く一彈法師ははは

あつたれまの公とうきて答はえし
^秘 源の我力と早下しての活し仏はし
かしては活し
いしはうりうげ ^秘 加持のしは源はと
聖に海りうし

^聖 たく山乃松の戸はえと活しはと
ふととらうれ ^弄 さうはりあり公は活し
面白奇云し ぶらう戸はえは活し
句法あり

松云むらねんを返してましあし松の
能とまねまめそといふ細合よりかき
ふかといふはれらうらうらふか
か花かとりはらうらうらふか
え活といふもおれは物かまといふ
物うはらうらうらふか

こころをまら家 ^何 獨鉈也

^{独鉈ハ} ^{善持心ノ} ^弄 聖の何公とうきとこころをまら
傍部とまらうらうらふか

思ふ處

ゆゑに太子れ

聖徳太子也

聖徳太子ハ用明天皇の子也上云太子れ

何本朝神仙傳をひきり 此と略と

¹³欽明天皇御宇聖徳太子六歳冬十月

百濟國より經論洋師禪師比丘尼以下と

りりて移れ宝地と云てまろりて聖太子

金剛子の念持事傳以下より人々或念持

澄ちた太子れりり地中より念持事連とに

河り中より金剛子れ念持一連あり又後

寺の縁起ありと云りり秘傳秘傳記り出

たよりりりりり

くくくくく 百濟也 今云くくくく

五人がりりりり

¹⁴百濟國より金剛子れりりりりり元皇

寺資財財中九云喜多迦子金剛子其書

海國取獻しり但聖徳太子れ持教の縁ハ

いかに人出りりりりりりりりりりりり

まは車といはりしよよひましく寝ぬ
それたたり 百洲國より入るる若し

まはるりやうりよ ぬまよりまきよひましく
^可 嬰利袋とれいぬりぬまより袋海に反て
うぬさういせんと何りぬまよむくまの袋は

袋まうしり又音横通れひくまや
ぬまよりぬまよはきま ^結 ぬま ^結 ぬま
ぬまより

^可 貴布祢ハ鞍馬寺に鎮守之鞍馬布祢

中間ノ僧正ウ若し云あり茶師仏不動
寺靈塗の地ノ茶師仏佐右のぬまに種物瑞
乃重とひくまより僧正れまらぬよこれ
重よ茶と入てまらぬと醫王の茶ん
四りぬまにぬま ^賜 ぬま ^并 ぬま ^た ぬま
ぬまよりぬま ^秘 ぬま ^可 ぬま ^秘 ぬま
若しひくまより
うらに傍部よりぬま ^秘 傍部れ傍部へまら
て尾云よは茶上れぬまよりぬま

多しよまの

向來

遊仙窟

後四六年

四とせむと路じ

たあさばよれ まと甲やうのたん

ほいけしと

原の石

^原夕タアアれがれよ花の色とていつか
あらしそとけぬ

傍都れちいさくしうりして尾三つ

かりの草と花よるくてもみまり

^生はとちやむの何よりいふ

きしよとらん

けを弄れうとほ家元は源氏から

らぬとらみほすとすはちといひ

してふ事といふあふ

源れ西きまんとらん

よのこあつせす下り

源れいほりほるとらん

らりり

松云ほしよわい

うらまてくはるり 厄ふれふりいふ

よきこひにて張書りふれ書りふれ

大敵より

秘 葵上乃父おとせ

山中わたす赤 大敵の書りせ

そりれ寺乃みりあや

かばりまれちのまふ物やごり寺

うらやえのふ井よ志玉まばく

ら玉まりのや 下略 信馬玉あつ

いふり寺 山寺よみりあり 秘 日

新

かつあやごりれちのえりあにれ

とくけく月礼 野

後

葛城やごりれ寺の秋の月あま

まてくけくとらみ 具

是皆うらふれあにて泳せり 秘

人よりいふし物老らあを 秘 由むく

うらふても皆難なる上人なれ

此前よていけとさう

ひらりふりあすいぞん

何 單葉 未摘花の春より

何 何 乃の節のせあり 秘 乞も池乃如

何 笙 阮文曰笙十三簧象鳳之身其列管以象鳳翼也或云管翼鳳音 今雅曰夫笙謂之黃部陸曰列管匏中施黃管端列仙傳曰王子喬好吹笙作鳳鳴書鳳類通言之李孀笙詩曰欣寫欣書羽異六声 隨舞鳳哀書鳳の丈婦之

僧都琴とらりてあり

何 琴 神農作云元五絃宮高角徵羽是之加文武王絃合七絃也琴操曰長三尺六寸六分象三百六十前廣氏後象年上四下

方 象天地五絃象五行

何 清御原天皇在野宮として日言琴と彈せ 志め活なり 前曲のともく 舞雲ほ舞油 如清りて曲よほて袖とあつる幸五如 天皇れ介餘人に見えひていへ し女子うとめさひとりのりていへり

ゆきてととあまひすま

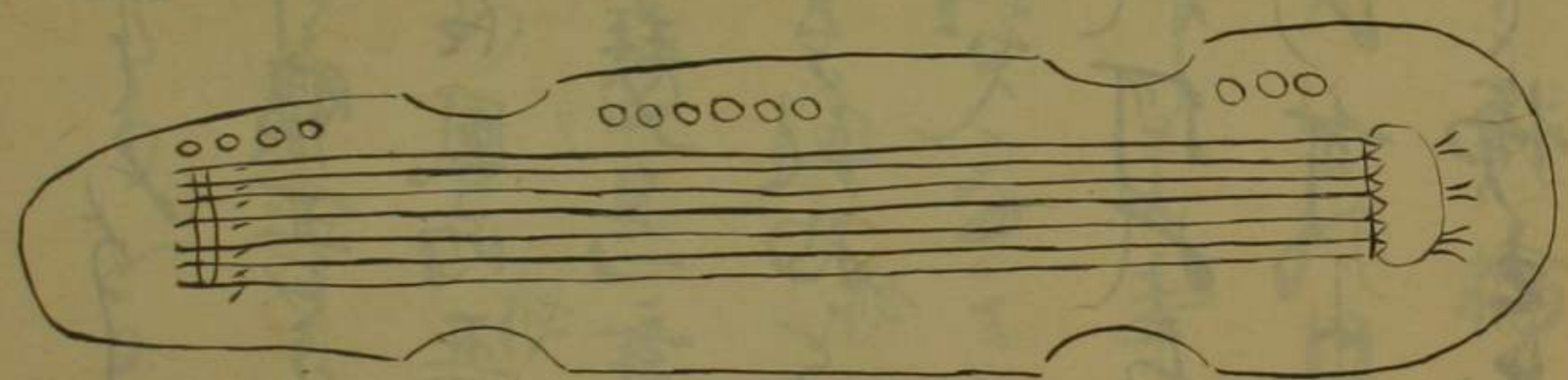
是五節盤觸しととあれまてよあり

中
あまの八世
又太師の
はあの手
今あま
出河

は黒曲上右後まふ中物く糸勿漏之允恭
天武以下令彈給く由見日中紀其後延我
のほまてし間彈どり人まて中右以事業
曲断絶まては黒よ今お孫又白虎通云琴志
林之禁遊於和氣以正人心こと高家
け公まてし八源氏し八屋はけふといひ
ひしつれ初ふそ此物のをまてくはまらさ

ゆやとりり傍都琴と河かうらひまあ
りまら有りなれ

琴圖



分

長三尺六寸

三尺六寸六分

七絃 墨原集賢

未

松云は圖下所繪の
以しを代不見及の
およりるの式なり
考し

山乃そりとおしり

可 琴書曰師曠吾く其官也工於琴

易寒暑台風西晋平公鼓之感玄鶴六下年列子

孰巴鼓琴瑟鳥舞而鳴魚躍而遊

公ちいし多くこれ物とし 秘 漢武の居り

弾ししゆ

傍初と何れ何れらきりよ

上れ傍初の奇よえ源氏と八優曇云花

よふくして梅と出世よらせり故よ山岡ハ

因書日ひよハ輪王の出世しり幸ハあ

みやあつと二れ日午の未世よしれあひ

好く海ハわしよ幸よ

このわり君たよあきんらよ 秘 紫よ

もれはありさ海 秘 け紫の又あつれあ

うらうかつとて 秘 紫よさ海

君ハまけうらよ 秘 源の糸内あつ

いしいうめうくまり 源乃鹿の餘乳よ

おしりくおしりよあつとのおりしりさ海

ひきりぬきうごりけり 源氏出帆子効歿お
りしに

河さりあしにそ みるれぬ視

地書これなるの取とそとのきりし決
さつとけりよし作しゆせ

^秘阿闍梨 七高山阿闍梨 近江國比叡山

比良山 美濃國作吹山 山城國愛宕山

樺津國神峯寺 金峯山 葛城山

毎年給穀五十斛 春秋若四十九日

修業所梅過祈天下且穀 承和三年定

大教まのり河ひ 夢み又る巨源内裏系會

^{FTIC}一日二日うちまき ^秘大教の我由方源と流

川一筋

りし御車よ 大教の車也

^秘源と八端よのせりりて大教の奥はた

のりあふし車はあの方へさうり也

とさうりばさ 大匠は源と河あ流るん

心らうく 源の心也

敵よと

秘

葵上のゆくいせ

女君まこいれ

秘 葵上こし

帯よりちとけぬ葵のさへこれ源の
心よ何りぬし

甲ふ事もうらかどあり 是より源の心ぬし

よた心とよけと よよ河原坂をとりつらぬ

と深くはらのつねなる 秘 源の葵下よりぬし

こゝぬいばふよ 秘 葵上れ詞

源のゆくいとふとこせはつるぬとらゆりて

葵上とと久しく心はふりてまの源

ゆゑとれとらぬし

美後撰意五河さしりれ物居らうとあせ

うたこかよりきり女のりといりよは

しこ思ふとれ新しつりして久しく心は

女よひつとせせうとこせはぬかしの心

秘 美後撰といひよりなるよ表されとらぬを

けつとのおうたのむら 美はけりあふ

君といふ思ふ人今よりせしてこゝぬを

やうき物しききんは方物一物も何
らんとうらうらうあは川あお叶を

らばらきわりの 葵上れさほし

ゆきくはほほの ぼの洞 舟松 舟

のぼひつるこふれもよとぬつこ

かこふ事一あつまうよとく

美もあつた一言と曲あつた傍よ

てすこきひまわらうととぬつこ

うこふ根もけりめな舟松人よの船合

洞うとほわくほく

こふぬうしひきり 舟 夫婦舟よの

さほふとあつすや

うやいからたう 舟 舟あほよんり

可 合ふたをよあつたはらひんり

らみーとせん一様

うらまひとてうらまほ ぼく

ちほをけりたきい 舟 舟あつた

とほの棧よはあつたあつたはらひんり

世とたりしみるし 源の公を不れするなり

おのより草 秘 葉よせ

昔の文はいしりてよ 并秘 何てありとあり

わうなりしのかるしんふり昔の文いよ

かひわうなりしなりしと也

私云何てあるしんふり貴とをれいしり

三のゆれぬかひわうなりしぬかくい隆信

のあり公又いしぬ敬のあり公

かろ一なりよ 可 族 葉 在 葉 と 一 類 ありし

又文者重一板取と也

秘 是ハ又文よハ似通いて有重の女は板

通と何や 一 通 ありしぬひとありし

しんふりしぬよしんふり一板ありしぬ

よとれ板と也

ひしんふりしぬ 秘 又文板いのかれし

しんふりしぬしんふりしぬひら族姓と

又乃日西 秘 山一乃みと

してふれま 秘 是より又の詞ありし

原
西^原けハ方々とし^原まきし^原さう^原公^原は^原なり
こゝろて^原こ^原し^原し^原

^可留て^可う^可や 証^可あり^可れ

こゝろて^可い^可留^可て^可こ^可ろ^可め^可て^可事^可は^可も^可西^可け^可を
身^可と^可こ^可ろ^可し^可証^可あり^可や

美^可日^可海^可の^可公^可ハ^可也^可よ^可留^可て^可ゆ^可り^可ま^可は^可り^可裁^可力^可
よ^可何^可也^可あり^可て^可う^可西^可航^可の^可又^可う^可よ^可や^可と^可
よ^可乃^可ま^可れ^可風^可と^可

^可新^可ま^可し^可証^可あり^可て^可れ^可ん^可つ^可る^可梅^可花^可初^可花^可の^可

風^可れ^可う^可し^可う^可ち^可あ^可る^可は^可

を^可し^可け^可み^可証^可あり^可

美^可日^可河^可よ^可ゆ^可こ^可舟^可と^可こ^可そ^可み^可な^可は^可ら^可う^可
お^可か^可つ^可る^可あ^可つ^可み^可み^可ハ^可字^可法^可の^可某^可も^可み^可
こ^可ろ^可こ^可ろ^可て^可み^可ま^可て^可い^可る^可事^可り^可こ^可こ^可も^可嫁^可取^可記^可
よ^可ん^可て^可ゆ^可り^可証^可あり^可の^可ゆ^可こ^可柳^可ハ^可能^可合^可は^可某^可武^可ハ^可
紅^可れ^可腐^可柳^可二^可さ^可さ^可の^可よ^可舟^可と^可こ^可そ^可て^可こ^可こ^可て^可
川^可流^可ひ^可て^可是^可と^可り^可て^可れ^可れ^可と^可よ^可う^可す^可や^可り^可
一^可さ^可も^可て^可某^可り^可ハ^可妙^可合^可れ^可つ^可て^可そ^可日^可流^可柳^可と^可

ほそくさりていせりてくひとひのく
日云とひきくちうさ家いあ流く河ノ義略く
いひるさ家 何さくハ央く

美ふりさくくちうとソリ 央説文云東仲の
師古日半く又盡く詩夜未央漢武帝
賦惜繁華之未央 何さくくちう半と
くく百年れ半のくえん 中何りれえ一洗
么さくハはくさくくハはくさくくハはく
れはくくく 万葉十八云

たふれさくくぬなみのくさくちうさく
いひるさのちくくくくくくくくくく
めも何やとハ一洗あやめ何事くくく
くくくくくくくくくくくくくくく
のちうくくくくく

めもあやよ 美悟くくく
何さくくくくく 秘 厄云の公
いひて乃何と美 秘 是くちうみの詞
美 いひてハ使直く

ちろく 秘義 井河らちろく

まゝ 紺波と云ふ

^可 け詞とつれれ人の弁と云ふていふまゝと云
ふらと何らあやまれのあはれ古今序り
雖後津後香山れ弁と云ふてぬ合は
めあも志ひりしころ事くははれあふ
一字つらまていふていふと云はれ
とさてせよのよせれふあらうまいあはれ
かーとつら

^秘

而れハ力と云ふれまのれと云ふと
云ふていふと云ふていふと云ふて
いふていふと云ふていふと云ふて
いふていふと云ふていふと云ふて
古今序り 紺波は後香山と云ふて
人のつらめに云ふていふて

^秘

吹尾上れ橋らぬまていふていふて
いふていふと云ふていふと云ふて
いふていふと云ふていふと云ふて
いふていふと云ふていふと云ふて

方ハ一向は花のうへよそへてくさくさ一物
花のうへにこれとつら

美花乃うへよそへて 美曰浮のみれはあ
るれ月もまけいけむさうのつら
く況はくくく尾上乃様されい
く海女さうしとけり眼とけく

いせうくく海女さうし 新 花のうへよそへて

私云は花乃可心のうへよそへて
くさくさく海女さうし花乃上のは

らうくく花乃様をけりくさくさ
め花乃くく海女さうしとけり
さうしとけりくさくさくさくさ
花乃くく海女さうしとけり
さうしとけりくさくさ 秘 推えくさ

いせうくく海女さうし 秘 推えくさ
くさくさく海女さうしとけり
花乃のうへよそへて 秘 推えくさ
くさくさく海女さうしとけり

はさく〜〜ぬとついでに〜とて
ぬ〜
方便 遊仙窟

れのみよそ 源の由文

かの清くからりま 何ハチチカキ 放書

あ 後考山
花
山とてりや
ゆり巨とれ
序九回と
四つとせう
ありけし
りけと
ゆりれやあ

美切られ人のあり〜とて一字つがき〜とて
ら不物後よから〜とてれおらら美れ中さ
よま〜とせらら〜とてらら〜とてらら
一洗西田法師云園花道〜とて角花
らら〜とてらら〜とてらら〜とてらら

と思ひ
ま〜と
又とと
ま〜と
く〜と
とハソリ

何 武説放とハ 字とて訓ありとてはれ 未詳説

け美不用の放書とて難信はとてとあり
程よ〜とてれ〜とてらら〜とてらら
所らら〜とてらら〜とてらら

原 後山〜とて人〜とてらら〜とてらら
事 さら〜とてらら〜とてらら〜とてらら

秘 ぬらり 秘日集

世に ぬ初て梅〜とてらら〜とてらら〜とてらら
美

よしなるゆゑもぬるあてをくらげのしんねに
たぐふれ井のありの弁よりとぬるあて
るしとしんねのあてをくらげのしんね
しりていねしとしんねのあてをくらげのしんね
しりていねしとしんねのあてをくらげのしんね

在すれしとしんねのあてをくらげのしんね
やふしとしんねのあてをくらげのしんね
しりていねしとしんねのあてをくらげのしんね

ゆらりしとしんね
秘日

筆 中身のりて
くみろりてしんねのあてをくらげのしんね
のあてをくらげのしんねのあてをくらげのしんね
あてをくらげのしんねのあてをくらげのしんね

唯え海よりて尾上のりてしんねのあてをくらげのしんね
させろりてしんねのあてをくらげのしんね
こねろりてしんねのあてをくらげのしんね
こはねろりてしんねのあてをくらげのしんね

心しきりたるを

源の公

有つ不のちやたるをいふ事し何りて

三月四日乃此れ事なりて

秘集日

ゆきそはり

三集れあり

心し何れしをいひて

源の公

日あてとさそとせしむ

松源れ神の四の裏れきりつ不里の二

集の流るる

いふ命婦

秘集

王氏の命婦

見よそはつる程きく

松源の公まゝの神也

宮にのまゝの

おしりさるる源氏れ君の御守り

はまのまゝのし初より

集是よりゆき源氏有奇(密通れ)

まゝのし物神のまゝひみれり

あつたはりまゝをいふまゝなり

つらゝいふまゝなり

いづれかきしき 并 かくしつらふ公たに
いひし者あしきしらふかむかむよ
あとしてなれり

む 源氏の年よなつたれ女津とまてらふと
さりありあを海しりしはてらふあつあ
あよまをれおて人れ公とのいふ
あしあてらふよあつらふあつらふ
あつらふあつらふあつらふあつらふ
秘 いふく思ひまはるぬのほふ

何事とらひ 秘 源の公はいよとれ
くぬのよはなりともはあま
何拾 口言海のくぬれよ
くろりきいれん
奥入とあてけいふ公よよけい
の山乃な方を事のあるあつらふ
し ツレキ 葉暗字ようせて
心 心 心 ぬふく
と

一葉の芳れいしかなつひさしくぬさく
 さらさらいもろく奇うれはさ乃朝す
 多かりりりりや公ハおろろやいほれさく
 くらふふあよなりりるるほりささや
 多れれ中胸えされ朝とりていあ家奇
 多うひもれくぬの山よなれれつ
 多うぬまやさあぬ
 建暦三年春三月
 多りせぬくぬれ山とみつるまれ
 去れそ人のほくや

義以上は方とほと

只くれ公よて夜とさふ公ぬく
秘

秘
 古今

林の夜の月乃ひりり
 山とさあぬさ

定ちあふ二角花よありけい建暦三年

三月乃奇よ月れゆるを其くせあを

何
 密山通継母事

則天皇后者初太宗之妾也後為高宗后

光仁后井上曰親王通桓武給之由見^{國集}
美^はぬく

原

見ても又は夜御さうり身代らに命をまほしめ我が方と
争^争ひてても実なるさうりさうり品^品及^及神のやうか
まてしけ^け及^及中よまほしむせまわししや^誓

美^美四^四りてと八^八南^南意^意とら^と又^又は^は夜^夜御^御さうりハ
けい^{けい}な^なれ^れ事^事や^やけ^け及^及女^女と^とあ^あ人^人時^時ハ^ハ海^海女^女か^かと
及^及し^しさ^さら^らい^いと^とい^いて^てせ^せと^とさ^さう^うな^なし^しや^やん^んと
て^てら^らう^うと^とい^い及^及の^のさ^さう^うい^いが^が人^人と^とい^いま^まし^しめ^めり^り

むせう^{むせう}あり^{あり}の^のよ^よま^ま海^海と 原^原の^の祈^祈や

らと^{らと}く^くい^いし^しく^くい^いん ^松さ^さら^らの^のま^ま妙^妙や

友^友つ^つか^かの^の心^心し^し原^原れ^れさ^さ海^海と^と南^南も^もさ^さう^うあ^あハ

ま^まし^して^てい^いん^んさ^さや

世^世有^有量

世^世う^うり^りふ^ふん^んち^ち海^海へ^へ人^人は^はら^らま^まう^うほ^ほか^かと^とあ^あぬ^ぬ及^及所^所

海^海民^民の^の身^身代^代中^中一^一や^やと^とま^まま^ま海^海に^にい^いく^くつ^つと

我^我方^方と^と及^及よ^よま^まさ^さら^らと^とい^いふ^ふと^とい^いか^かと^とさ

り^りぬ^ぬ及^及と^と日^日々^々と^とい^いふ^ふぬ^ぬ及^及し^して^てい^いふ^ふぬ^ぬは^は

乃^乃及^及よ^よハ^ハい^いふ^ふさ^さう^うと^とい^いふ^ふ世^世と^とい^いふ^ふ世^世と^とい^いふ^ふや

ほくんと我をたのむ所のありては
^秘 秘 向由なきくもいふたふても
事ハ人のいひはふりていふとあぬを
のしとあはしめてわづかにては
ぬきとていふもいふもいふも
よはきてい何ゆゑとていふも
あつていふもいふも

美のまのまのいせれ別のま
力のあはぬてはなるといふ
てはつていふもいふも
いふもいふも

たのむ所のありては
なすれぬとていふも
いふもいふも

命の君のいふも
^秘 女をいふもいふも
いふもいふも
いふもいふも

河内とれいまハさきねれをわけてつら
君とみをもつらふよ

御筆

右東門院の一皇院崩逝の母をいさ
さきねハねとくといらふていつる
上東門院の御方も大岩日記に

美曰さきねハ位度如くけりて夜の
字とまにこゆ花鳥のまある

所少かともまにの西人といまぬ
母御は源よりまをせられりまとなきれ

御らんせぬ

うらんとまいて

源ハ地思ひとえそつたをりし思ひを
て筑前飛鳥をさるる

又いれりあし 因 所つり西公なるか
やまよ又源を飛鳥をさるる
おハすりあし思ひまげさるる

たをりし思ひをさるる 源の公を思ひ
かきまると源の公を思ひまげさるる

あやまりして思ふ所なく

^秘源の病位と又いふは四月はたかぬとも

それさおれ後一よと

をやまうさき悔り 友重のかみひて源

よあひ流つる事と公うらま事にさき

しつるやこそおもふ

やまひり好くお 友重よいふは清の事

由はたはなられまの乃流しよと へかり

親くうらよるは懐妊の念れをまふ

いづりけまや

公く 此門の女子よははねと者つたの

御母よたかりよまてなりく思ひ親流し

三月平よあり好く

^心三月とみか月とさきらなも何り友重此

女御あもさき女流て三月よりには初

け三月のは由公らうらひて由とにま

しききり時由民君らうつさくあ流ひり

由懐妊ゆりて卯月のはよりロツ六月の三月

ふりりよなりやさうかゝるに月とをさる
心いらりみせかくてゆらう年九月十金
よ冷泉流はせれ流十一月はゆらゆら
^秘卯月らり六月まで三月の二午寅月
な月とらむ一公八日事や武流六月
六月とらみて冷泉流十月内よては
流よとみ流あり不可流のりく十二月
よてせし多し 美花秘上回
い海てなりせき流流はたりきり事し

人くハ何とて奏し流みそしとん
まぬ人し乃ト事せ

より流公いし何しハ三りたりとく 有重の
^秘流事し

流公れとこの弁命ぬりしれ
^秘流事し
流事よお遠あり一午よハ流公れ二弁命ぬ
云し王命ぬハ流公れのとんれ人の子と弁命ぬ
と云ぬ之親行なりハ年と弁命ぬのりらと
よりて二人の名とハ弁も流公れとんれ

因書
此乳母は
今下ゆ
一三
私云先
用

王命ぬとの二人し又此めれとの年命ぬと
三つは八赤命婦一人の右し

二人の右し 河内がよ白と
二八赤れ命婦しりひ一人命ぬと
但二人よのそとぬらうふりや

并し命ぬと親子れ事命ぬハ王命婦
終つと河内がよ白とまりて二人れ右と
吾衣紙よ八赤の命婦と讀事なり

但云二人可然云し

美曰親子河ひさうして命婦らう
二人とり美正流らう
其子れ事の右とぬた
かきくはひりるふよよあ

私け初よつきていよ王命ぬ
れ赤の事し二人せもれ事と二人
日人初めてまらきとと親子の
し後命とよ柳のなまや代
ととくといひりるふよよあ

月よ八海物の字れまゝにしよ

そらうらまき人うらまきといふまてきま子の地へ

^秘かぢりよ月よ八奏すりせ

しれんとされし思ひかり ^秘みか人もありに

思ひまかりし

いよほくれよ 御門の御ゆよりの有重

よ思ひのゆさうせ

そらわらうらう物とあかきひまかり

有重の地へ

中つれ君と

^秘海へ

さゆとけつあまといはて おもろくしよまとい

あまといしよまとい

^可とらひまかりといは光海氏天子御親とあま

まい抱えられ中よあまひあけりていは海遊の

毛詩 文選の詞略

^可あまといは海氏れあ方れゆ腹よあまといはあ

て位よつせあまといはあゆのゆあまあまとい

^并は事あまのまといはあまとい ^秘日

美さ海とさうとハいらば此等ありあらん
とてハミわく

何んゆゑのさうとてこゝせまのいさひ
おもひとくけぬ

^秘 源氏の天子れよらくさといふ事

美曰は事 ミツククし来ミ云 此等ありあらん

とくわくしよ西子云人みとそをいひて
と海に中のとさうハ右故に位
ととハむと物さうし中れを

よ女ハこてまゝまゝと何りて事
とよあめり云

これ中よさうひあありて

たまハ源氏れ西子とと人の西子よ
さうハさうやれさく河海よ左近
さうハいさとあつゆり左遷ハ朧月夜
事よよまきり友重れ西子の左ハ河さる
事秘 花鳥れ美り云

美河云左遷の事と花云左近朧月夜

有重乃の所よ六河すしし秘し花
よきいなりあ

美曰は身乃地有重乃一花地と故しと
はく一の春はけまのよとよのよか
氏一世れよや左近れ美よあやゆ海流
花よ渾れゆ子の代人乃ゆよよひま
と流る乃ゆとよの原家舞の流くお
ちりくハカとけつる
二乃夏河よまて人よまゆれ

^何水原抄云善悪夢不可語人よひを
そふんこしし二葉只これ流密れん
よとまのり

^花夢よハさゆくれ夏を思ふといハ
れ夢とてひりあ
云ハとらやうとるま
正夢といハゆ
と夏と流し敷く朕北の夢といハ
下きこれ夏く丁固う松と夏は

十八歳ありて之云より江滝の如き
又一々の文彦日くよ何れに
源氏此君の御事なり
大乃文れ事 因 有重懐妊一の事
源乃事おて 中 よひ合せ
此は 中 命ぬも
くありなつたもいふ 中 あり
七月ありて 中 七月はなつた 中 事
い 中 懐妊 中 月 中 日

秘 四 中 あり 中 あり 中 あり
あり 秘 懐妊 中 の 中 あり
あり 中 あり 中 あり

世 中 あり 中 あり 中 あり 中 あり 中 あり
秘 涼 中 の 中 あり 中 あり 中 あり 中 あり
こ 中 あり 中 あり 中 あり 中 あり 中 あり 中 あり
あ 中 あり 中 あり 中 あり 中 あり 中 あり 中 あり
ま 中 あり 中 あり 中 あり 中 あり 中 あり 中 あり
か 中 あり 中 あり 中 あり 中 あり 中 あり 中 あり

元

雲上れし若草らよ〜ひ〜う〜く〜成〜

京の六条の家よ〜い〜の〜事〜也

京の所をみり 有梅字大納言 京上れが後文の家

たあ〜さ〜は〜れ〜 秘 い〜け〜き〜う〜れ〜を〜の〜

け月此ハ何なり〜は〜は〜る

何と云

出〜て〜い〜る〜と〜あ〜れ〜う〜ら〜れ〜れ〜か〜ん〜あり

〜い〜ま〜ま〜家〜り〜る〜か〜し〜と

七種徳云集

〜子〜れ〜る〜人〜と〜い〜と〜思〜ふ〜時〜か〜と〜あり〜い

〜と〜い〜ふ〜地〜も〜ひ〜い〜は〜れ

〜に〜葉〜有〜不〜乃〜葉〜也

秘

川方五月〜に〜有〜不〜れ〜し〜い〜ら〜い〜は〜る〜柳

なりけし〜と〜の〜〜葉〜し〜ゆ〜も〜也 美同 有葉の

由事有地事〜と〜わ〜れ〜は〜ん

月乃〜と〜う〜〜小〜夜〜の〜ひ〜ら〜り〜布〜が〜ら〜り〜て

秘

い〜き〜ひ〜ら〜り〜布〜ハ〜耕〜と〜と〜ら〜れ〜は〜葉〜を〜秘〜お

〜ら〜り〜ぬ〜〜六条の所是也 美同 と〜い〜わ

〜か〜つ〜ら〜り

秘

六条の所是也 美同 出〜て〜耕〜と〜い〜は

私かうして思ひから居るといふもな
つたの事一山となら事なといふ
是におうく其うきかぬ
まくれめいてうちそく

あよ月れとう一祝といひて又時ぬめい
てそくはう林れきさううらうと
いぬい何まこりあれ
これハ業のうき君の空とせ

故按察力の大納言れ家よゆり 惟えれ

尸せは書上れおせ

かの何うしう一 按察のね宝書上れおせ
上よハううてしききてしきうい
老病して再教せ候や

何れれ乃事や ^秘源の初や

いやくいひきき事か ^秘少納言の初や
いやくいひきき事か ^秘少納言の初や

美見くうしれ而のさ後柳余るれ
うこゆりそく

弁
うらけし
かもし
らぬ
ありと
原と
流る
ありと
わ

美に出れりけなれりや

笑書むりうきんをいふ

一といふ又故の事

ゆかりなるいれりて

うらつきのいれりて

美曰地うらつきのいれりて

のうらつきのいれりて

く

けふうらつきのいれりて

源れいれりて

美曰けいれりて

松云美の目美ノ美て用之を

つねに思ふに

いれりて

なるませり

て多し

故に

見たり

わ

三河しきこしきせぬしれ活すか

ゆのまこいこえさせぬしむとふりてんば

の活ん事といはれ上りのせ

かくりなさいより秘 *Samurai* 1777年

齡そとさありてん

福ひゆりてん秘 な生れつりてん

いらりしハ秘 福さいおのさしうてん

そ活のゆりてん秘 といてん

みさうく—ゆの去活と興うてん

ちうていあまそへてゆりてん

まこいゆりてん

れ云帯れゆりてん

こ—をさるる狂言よいひりてん

ちりもこ然える

心ゆきをけり御し秘 危云の勢や

いせうこけり秘 いまこ危云の現し

これまう秘 いまらと成人も何ハ

あつて世のこ—いさといふら

あまこりくみとて されば其の
色のまろくと海の色

うへし 雲の霞とていふ

六の寺より 雲とていふ

いさみーく 又葉の霞とていふ

かーいさみーく 雲とていふ

いし霞とていふ

いし霞とていふ

雲とていふ

雲とていふ

雲とていふ

雲とていふ

雲とていふ

雲とていふ

雲とていふ

雲とていふ

雲とていふ

雲とていふ

唯若れ声と源氏若くはさぬやけり
こころと何うきくぬと先の成り
て思ふよふうねはろのこころはみても
つるもやれ事ハ世らふ幸にあはせ
^秘りハさぬかと体らふとけりていぬ
けりこころとみよくさむいぬや
えさぬハ白やぬこ 箋曰
箋曰さけハ宛字こけりぬあり
えさぬハ白やぬこ 何は云えさぬこ

お終一人を ^秘河川 用一 箋曰

^何みよこりれ若くも小松こりぬ
あ一人をさひんと 思ひ
入るこもあ 小松こりぬ
人よやこいし
つ納てうまこころ ^秘つ納てぬ
こハせぬかハ ^秘つ納てみの初ハ上ハ出
やあれと若れ 源の公
解の夕ハ海して 固有つ不れ也と若れ

春男林女として男ハ陽ニ陽ニ陽ウククニ海女
といひて女ハ陰ニ陰ウククニ海女ト云
有重れハ事ゆへに
有つ不の事也

秘
私云おやうと云ふ事ハ若つ不せと云ふのは
よりよ公と云ふハ海女ウクク人ト云
何ふらなりゆり
有重ハは名上れれと云
三人中なりと云ふ事
海女ハ名云ふ

秘
たひみん何れと云ふ事ハ海女ト云ふ
海女ト云ふ人ハ名上れれと云ふ事
海女の事ト云ふ事也

原
見んと云ふ事ハ海女ト云ふ事ハ海女ト云ふ事
ちく見ハ見と云ふ事ハ海女ト云ふ事
よばていつと云ふ事ハ海女ト云ふ事
いりーうハいりーハ海女ト云ふ事
何
けふは名ハ名ハ始ハ海女ト云ふ事
よスセりト云ふ事ハ海女ト云ふ事

きつとハ有重れ女流のゆかりと云ふ

^春ひらひらの一しとていふはむしはれ等ハ人

あつはるれとそらり

とみ方のゆへ成ハ

むし野とていふかこされぬ

ととていひ成を

西海とげわつ事れゆりり

ともあり物私の夫とて表とさみハと業

乃ゆこよあつと地一はあれとあり等と

ゆの乃養く六条四右衛門 有考云 業公之宿願也

仏の相好とて世々磨莫金に粧といふは物続

れ中中一乃美人なるあよけ早河りといふも

河まりいりかわるあゆえ 髪ノ美以上因く

^秘ひらひれ亦の公ハ 河の流流ハ

松叶亦ハ源れ業上乃事と思ひやりてさ

独口とさみは派流へりとも白又時ハ秋の

来しとも白れよさる事と派しりともあるが

れと昔ハ名りれりしゆはありきりれ又尾

云此の事の前と思ふ出るゝ人さうぬひり
しるしなり成るに時にお遠く此の所
十月よまきく流の行幸

^七 朱雀院ハ仔流ノ天子脱履の母在所也
三原朱雀院ノ四町ノ道ノ終り延長寺
ノハ字ニ由門ノ朱雀院トド約リ十月の
行幸ハお望ノ候れとる

^并 朱雀院行幸ハお葉の事此の事あり
未摘也ハ横置の並にお望候ハ此の
未摘の中とよ河あり

未摘の中とよ河あり ^秘 美口是ハ事有

子行幸此の事あり ^秘 美口是ハ事有
^秘 美口是ハ事有 希ノ連ノ徳也
朱雀院ハ代ノ仙洞也

由人 ^秘 美口是ハ事有
厚人ノれき家子 舞人ノハ務家也
ト乃子 ^秘 美口是ハ事有
ト乃子 ^秘 美口是ハ事有

ト乃子 ^秘 美口是ハ事有
ト乃子 ^秘 美口是ハ事有

時れ申すとて誰れ思ふ出のよし

井 ちよとちと号とちとるま衣とと女御とと

とり又明石れ中まととりま懐胞あり

れ子とちとちとちとれ是ちと号すありんて

ちりちる 一彈ハれれよちりちりて

松玄妙事 相重奏よはるごと

くらくくくく紅 誰れ母更衣よとれ誰れ

ハ三葉年の時乃事ちれちりちりちり

ねと衣ちちと号ちりて念はよちりちり

少納言ゆききり 業れ終のと公あつ人よと

いとれととてまれぬよ 業上れ業上出るや

か程母の暇ハちりちりて誰れハ朕ハ百幸由

みりちれちちちち夜 業のち誰れおちりて

たえちりちり人よとと 源の公

まいのちよ 秘 新よちりち南のひちりて

れありちちちと 秘 危云のみちちちとち

御神ととちちり 源の御神也

宮よととととと 秘 少納言同業の又ちちり

又此のうらみはしるしをまうてしるし

こひめ君乃

^秘は京上れ母君之父言しし事とてと継母とてハ
いふもあつらうく厄ふれ母の御りしとせ

ねは京れ母君ハ昔々のまれ家しりものおれ
かさううしておまひよめてしるせにり

げまされうめハ傷病の治らざりしれ
そのとてれお方ハしよ昔るまのお方ハ
ておんよれハまれお方ハハ継母や

いとむげよらこらうぬ

^秘一向ハ二歳三歳の時さハまふ別れ
毎ハは京ハらむ十つりはとぬまの地分乃
中のはまゐるといふこと

まういさうくまハは君乃十つりまはし
人のねむいさうとさうねむいさういれれ
かうさうたわとさうり中まはるるをせ

何まこともの一話あり中れ

^秘系圖ハ京乃女おしハ三人あわりの中

一の何おほいこいさくありて一をれいおほい
二人いけりまきいせ方れ腹されいし

美日昔も女由女三人あり冷泉花は
と紫あのおのせ方といせ方腹三人は
とれぬわると 尾上

ありまきまき せ方いせ方いせ方

何しけりふいせ方いせ方いせ方

かくいせ方いせ方 源の紫せ方

たけの中いせ方いせ方いせ方の初也又い

おひらうや

のちれいせ方いせ方いせ方いせ方

源氏れはよ源公るいせ方いせ方いせ方

よなるいせ方

いせ方いせ方いせ方いせ方

いせ方いせ方いせ方いせ方いせ方

いせ方いせ方いせ方いせ方いせ方

いせ方いせ方いせ方いせ方いせ方

いせ方いせ方

なほかき 秘 海の向しきのいづけなま

いと我とてなまなれとせ

れんはてまゝなり

葉れはしるゝとてさうたかたせ

れまゝなり

原 河のうらた浦よりあはらへてさうたかたせ

ふゆふなみうら

何言物 おうらた浦よりあはらへてさうたかたせ

とれ君とてさうたかたせ

秘 葉は川をて用 并 葉は川をて用

よせうら

花 河の葉はらきふよせて若浦とあ

しるゝれとてさうたかたせ

あはらたててさうたかたせ

りていづかかたせ

秘 葉は川をて用 并 葉は川をて用

いづかあなまいあはらとてさうたかたせ

えん浪の公の介とてさうたかたせ 葉日

定家公の御成敗の事なり是

と入云

あはれなりと

人はてらてきておぼろひのあまの

とく西国とのまうらん公也 秘日

けよとていふことせし

が知言聞てまゝ笑うけうておそれ

入らうとて公に御成敗の事けりてせ

いふ後の公もきりておの御成敗玉座なるひ

か入行らうとていふ

御成敗の御公とてきりておぼろひのあま

いふとていふ公をらとていふ 秘日

美一旦の御成敗の事玉座なる事

なりと

いふとていふ

いふとていふ公の事玉座なる事

いふとていふ公の事玉座なる事

いふとていふ公の事玉座なる事

美 年齢不おろし

三三三三三三三三三三

少紀言うおされてお遊するもよしと
なうおしゆん

何人—きん方はいをげととと年ととてお
こしてきりゆきうりり開

伊勢尺よハちれききんといき奥入ハ
あしきことあり埋てぬし

弄花—女あささき—ひくはなりのと

秘 奥入ハ未勅云し

川ありなりとあえなれ乃詞どらわ
うふりけ教ゆきあり公ハいつさゆと
いハゆハきれうせ

美日川ありあまを略す

私美よハあえこひきんといあり
あしきんとい

私云奥入ハ未勅云しゆりうき
何ゆよ奥入といひり不審き

身よりしてしる人くおまひら

源氏れはよめしてしるや

君よりしとこひまこえ

^秘君ハ業上やうハ厄うや

此何をひくま

い業のあそひ乃とまことや

文乃たりま

^秘業の父共るまとし

少納言よ け業の因

宮ゆはけり

^秘はの因

あらしのまよ

^秘こ船とあり

何しひてきり

は業の公

先れとひきりて

業乃少納言しりてや

いざり ^可事 伴坂物所三名なり

あきよんれ

いほういあし

^秘源の詞

きんこわが

^秘少初玄れはらんせらま

くこひひたきいほさほらうとほく

うぬに井なむし

ふよこ入て

^秘うよこぬとういよりほらう

ひこよしあして發とさぐりほら

因書り人さうこれ事

うけううたしほらほおひさき

あつゆえまきいみさうまらか

うらまてまにさぬんれ ^秘は策の公

はみんとい物とて ^秘紫乃詞

はまそまうりいさて ^秘本丁まこれあ

入あよまつて源の入あよえ又みさ

あういんさとのうら ^秘入あよ威

いほはまうりよ思いふい ^秘かうとくほひを

^秘あふいんとうとよりて ^秘あうとみほひ

よむ

あふらふもてや

さやいとよかぬ

くらまにゆて

これの人まき

まよひまき

失れとハ

うづらうさくはさくさく 源れさくさく あて

何 偏愛

漢書抄

愛色

遊仙窟

鶏 うづら

秘 少知言詞

秘 源の詞

源乃さゆせ

源のしに夜ハ宿出

秘

少知を

そくあさむびぎよ

お乃おそらうよ 可乃れ毛 可乃れ

らうさくたゆて 源の公

ひとくさりと まさく まさく まさく まさく

ひとく まさく まさく まさく まさく

いさ まさく まさく まさく まさく

お乃くハ まさく まさく まさく

秘 草乃 草乃 草乃 草乃 草乃 草乃

あ あ あ あ あ あ あ あ あ あ

しづりなきありやよのつねのいぬめい
いせありれよんそまらるる 是より海の洞
かくてのいけ物とらへし 活きりきりし
いけとらみきりて物とらへし 活きりきりし
よむいへかくてれいけおんまらん物とら
し 活きぬれよりし

宮とれむくよあり 秘 少細玄洞又昔の文よ

とむくきりきりしとれ活とや

これ由 十一 四十九日

十一月九日ころ河ま君れ中陰ころしけい

時いんや年産沈のりきりしともこころ

十一月上旬技行きりきりし 秘 日

女の 秘 一 秘 活とらあり 秘 活洞

昔の文の由きりきりし 秘 活とらあり

いけ 秘 一 秘 活とらあり

いけ 秘 一 秘 活とらあり

いけ 秘 一 秘 活とらあり

いけ 秘 一 秘 活とらあり

寄つたりおれより物おれは海へはるかに
 西とれはるかにと秘まるとのいふこと
 いとせひてかへし語をれみたらありきと
 上は月の面白よ夜よのひよりおれはるかに
 と何りもの人れ事ぬく一夕ふの事
 んーあよふ事わたりれはせひありと
 せひてせひ語をれよよあひさひて
 せしゆりは事圓よハ別人よいつり
 洲ととあ

^舟 せし物おれよりくせ又大切なる物あり
 式抄は不洲ととあ一海上の里く二葉院
 とのるぬく一ととくは陰信よりきり
 一削のらんひれ句ととぬく一
 船やけきるる元ははひまの事とと
 妹門 催るあはわあ
 後丸や又集えはひまわら女れ家の事とと
 ありとととととととととととととと
 一より門行るるなとととととととととと

さかあろく人日まてハ

備馬車 妹之門

いづれ門家うかしのまはるるかたつて
うらひらかきれぬやうぬんまてお
さあまなかりまやかり年りてゆり
らんまてれぬたて

いづれ門備馬車しこいんかしてうしはかり

まはるる音のさうくい弟はまはるる

後撰よ女しりしはゆりまのいづれ

たのよし愛りなきれひまははれ
とあけぬおよろるるびり

まはるるまはるるまはるる

これわしはまはるるまはるるまはるる
かまきまはるるまはるるまはるる

けいんさいしきふたぎしんじつじんしんじき
えいけいしんじきしんじきしんじきしんじき
物産しんじきしんじきしんじきしんじき
しんじきしんじきしんじきしんじきしんじき
しんじきしんじきしんじきしんじきしんじき

殿(おりのぬ) 二条院(にじょういん) 一
おりのぬ 二条院(にじょういん) 一
おりのぬ 二条院(にじょういん) 一
おりのぬ 二条院(にじょういん) 一

くたごがゆりれ

ねえ川(がわ) 弁(べん) よよよよよよ

おみゆり(みゆり) ぬい(ぬい) ぬい(ぬい) ぬい(ぬい)

くたご(くたご) しんじき(しんじき) しんじき(しんじき)

常(じょう) のね(のね) おの(おの) み(み) よ(よ) へ(へ) り(り) ん(ん) ぞ(ぞ) て(て) ち(ち) ゃ(ゃ) ば(ば) ば(ば)

しんじき(しんじき) も(も) な(な) ん(ん) じ(じ) せ(せ)

あ(あ) しんじき(しんじき) ぬい(ぬい) ぬい(ぬい) ぬい(ぬい) ぬい(ぬい)

ね(ね) ぬ(ぬ) し(し) ぬい(ぬい) ぬい(ぬい) ぬい(ぬい) ぬい(ぬい)

ぬ(ぬ) ぬ(ぬ) し(し) ぬい(ぬい) ぬい(ぬい) ぬい(ぬい) ぬい(ぬい)

くせふ

年ころりもさよき
こいの中ころりもさよき
とそえ

かほよは 昔の文の詞

あまのほしと ありまのほしと
かとのほしの由方とありまのほしと
あれといはうーとありまのほしと

つあひうーとありまのほしと
あれといはうーとありまのほしと
あれといはうーとありまのほしと

君はうらまへ人か
とひはうらまへ人か
らうらまへ人か

かのうらまへ人か
とひはうらまへ人か
らうらまへ人か

とひはうらまへ人か
とひはうらまへ人か
とひはうらまへ人か

とひはうらまへ人か
とひはうらまへ人か
とひはうらまへ人か

何事もしりしめあひて人をせし

い人とも昔もなまれ 甲斐の上方といふ

松云今のお方といふ不審りたりぬ方と

心々しうきし ^秘 まくしりまきまう母のお方よ

又さしりしりしりしりしりしりしりしりし

てうはりしりしりしりしりしりしりしりし

心々しりしりしりしりしりしりしりし

何うの心なすくとも ^秘 まくしりしりしりし

少納てせしりしりしりしりしりしりし

松云ようはりしりしりしりしりしりし

なましりしりしりしりしりしりしりし

とらけしりしりしりしりしりしりし

^秘 かの家なきひめしりしりしりしりしりし

てはよ少納言れ先のとれぬしりしりし

如流てしりしりしりしりしりしりし

松云け初のお邊花鳥の何月をばあ

ゆかなるしりし

ら家なりしりしりし ^秘 尾云とまきしりし

いづれも抱いてはさしめさくしてはさすて
お納言の御也

またうらうらとねぢる 秘 又文の御

りまはれ方の御人とは 業の公はら寮で

いづれも抱いては いづれも抱いては

若の御とては いづれも抱いては

またうらうらとねぢる いづれも抱いては

これの人をいれり いづれも抱いては

おひてこの井人うら いづれも抱いては

いづれも抱いては いづれも抱いては

あまうら いづれも抱いては

又文は笑ひては いづれも抱いては

またうら いづれも抱いては

あまうら いづれも抱いては

またうら いづれも抱いては

またうら いづれも抱いては

またうら いづれも抱いては

またうら いづれも抱いては

昔々の美よりあはせむしとまはさ
ま入とくしとけれりもよはれはるあ
さひかりきんしるおめよふとあ
くまらせりいさのくし君れま
しるむけりひあしとるけはまよりぬ

惟光の海幸

君ハ左殿よ 海ハ左方ハ左方ハ左方
まいの女君とみよ 琴の海ハ左方ハ左方
河川まよとがきいていさるハ田とまはれ

いさるハ田とまはれとまはれとまはれ
地とあえまら河まよとまはれとまはれ
河川まよハ河川まよハ河川まよハ河川まよ
て秘曲あつて常陸方凡俗の秘のま
乃その一ヤ東潤あてすうかまてけあ
ふまのい海のせよまらる人まはれとま
和琴よ菅攪行攪とて沐まはれとま
よ用み事あり
み拍子よハまらかまにま拍子よハまら

その又事少と集まるとの由乃流よかくと
まろかきしひしき

并

一彈講ス乃町も末方明云可為

加

け原も事不羞之原中 最秘抄るにハ

多つくゆはけり花多河海不乃ゆはけり

きぬけ物流いつくまてとらとりまれまき

ゆいうさうやひらちよハ家とよれま

出さけハいろきぬ公のりよぶるくし集ま

葵上まいぬまくと對立せぬ地はけり

かうまのとうりめくぬくきぬ

人のくさし思ふをぬま揃もなうし

未揃ハ常陰文れれしとあくちもまはじ

けひ原ゆけけ時ふよけりま

揃(か)ひ原けがよあてくろ七揃屋

け長とんてりりし未揃なと

序よさうりかぬてまきり

是ハゆの和泉とまろかきぬてひらよ

乃弁とうひぬ

ちまのふつ子出流らん

昔のまねり一物出流く今よとくれ

そこの西身よ八仙合ぬ柳神とく

あうんとせ

さそろろーてんとハ かやうよろしきさあ

しもちりハさあうに世さうりてれろるん

え四ひ切流ぬまう 柳少くあおハす

こらとろろーてん

女君まいのまぶくよ ^秘 奏上

かーこにせらよ 博の奏(れ流)

しう流くいにて 因奏上れ方せしも流れ

なをみあハ又列よあろー

門らうとせ 流れたんすりあの門

あははまよと 作え

あはたりまよと ^秘 流れたんすりあの門

たさあまよと ^秘 少納玄同

あしういとまよと ^秘 流れたんすりあの門

あろーと少納玄の思

多しとせ

^秘源乃洞

何事あり

^秘少納言の洞

君より好ハ

^秘源の目入あや

いとさういふ

^秘みさういふと少納言

いひあつたせ

か人といふとあつた

まうおとろいおろかかまういふ

ておろいといふと源乃洞

か毎朝あつた

^秘まういふとあつた

^秘

いふとあつた

屋をえきいふとあつた

まのゆひくよ ^秘又まういふ

いふとあつた

まのゆひくよ ^秘又まういふ

いふとあつた

まのゆひくよ ^秘又まういふ

いふとあつた

まのゆひくよ ^秘又まういふ

ふんふんして又ふれりくくありけりとし
かきと戸かきりくきれりせ

人ひたり ぬれても一人はけりきりぬ
心けりくくして か細くぬ

まろくくせ かりつま今日くあんと
いりくんと思ひくくぬ

りしれはは人ひまありぬん 源の河

女房あらしはなよありくくもまれりく
ていしてあゆせ

御そとくひききけて 河提 井平

秘 乞ふきけて さかちりりりありて

二条院ハちりりハ

秘 二条院ハ法興院子准すりて日一暮の

かしりまれハちりりやきりハむをりて

れりて夏の空ありりゆき か細てれ車は

らりりりり

そは公うり 秘 くれハ空く 河日

源の河車ありとまんともくんとも公家

何心なり一いあゆりく一あてふわのし
とありて志又字あり一け志又字を
をまよあ字せ

松云あふりく一エにてまのまをむり

おま一ちしあひひき一けくろりあき

ヒ一りエとぬうしけりともひきあ

ころりり事せ

二葉流ハス一く人れまぬぬあれと

ひきつくりひて解て我へくありと

私け美ある 只此下屏風をもけ

よとみ活るぬくろり事と常一よお

ゆくろり一てむせハ只とありたて

ひきけくろりり一と云美なる一

君ハいとむけけり 葉上流のなをい後

とおろり一むり一とろりまを

一と一と一 老若れなハけり推れ

の心一と一とあり 幼稚の美

いはいさハ 活れ一と一ハ少納をとい後

ふいふ事々としひと一語

欠のしはらとせされと 少納言をやらぬ
明りまよふいふいふとていふ
おと乃はくりさぬ

可殿のまよとおししとせおれし野か
乃ましとたこれるまよのまよ
しとつり又ち居うぬ人もまよ
よんよたしとていふの物流もちお
のたしとてあり又けお流もあひお
り

ふいふあと思ひぬれ

ありけきほし後海なる神

女房うしそゆつはさりきり

そつぬ女房うしれまよあまはる
くーうぬ

日あうしむたふいひて ぼん

ゆふとさく

秘あつ乃人としうんと

夕はまてしと 言ひけてるし

多い女もくく 只とて言れぬは西の志をいけ
こいふ東に巻く海にまみけは方なる七
四人^{ヨネ}ゆりゆり 引れいよとて物事ぬ
若いゆりい 葉のいよとて少くはつて
かういふくか 是より源に葉よとて
まゝゆりゆり人 ねとるまゝのるにわん
うまれしは葉の上の火のあつたのをいふ
よといふいふ海にせ
女の心をうりゆりゆり

何 端嚴如天后 大慈心牙未軟 華嚴經

陽體剛強自在 陰柔順從陽

在釋

^花源英明 男女婚姻賦云至剛者男至柔

^秘花多し源英明男女婚姻賦といふより作共^{老女}

英明よは以後江相ふこあふむ七^秘後漢書

列傳二十四曹世叔妻傳 陽以剛為德陰以柔

力用男以強為買女以弱為養 生男如狼

生女如鼠 行恐其食

いふらひさしとていふらひと

服者れより事とて立例なきは河を流る
その河はみひまよりり河でさきこゆり
^秘花鳥れ流を極へーみひまと見し
うらさきありと 是也
しんとうらさきして 源れ我れ
東のさいよりり流るよと出で
^秘源の東れ流るよと入いてのありよと上
よとふかして入る
四位又位あるません

^可あまい海せていれませと西こいれて
といよよりさいてしあふかこみ書物あり
松玄川あり二首河りこれと略と
より物や 尾上れよりととすれ流あり
はまのあやうりありおされんといあり
若ハ二三日由一とまりり流いて
源れ事月より一流りれは書とまけ流
屋とてり人よりたがととすや
^秘あまのやとやと

ひき野とくにかいれぬ

可 ちり祥とむきし世とくにかいれぬ

りやさしとひつさいの世

右つ下の世ゆりとし 川あり日暑く

そりてえおほり 原くまのつとと世のえお

原 祥はんねと衣とれ世とれあふあふの世と

毛 祥はん子とハるれ根と夜はなよふんぬ

葉平中お妹よ對してあつらひ

うらつと祥はけよあつらひとひとれ



ひとんんとととと

け祥はけと根と夜よあつらひ

葉の根と夜めつとととととととと

とと祥はなまれとととと

松露あしけとあつらひ右つ下れととと

いて君と 秘 源の詞

まさいよとハ 秘 葉の詞

うらほつととと 源の

うらつと祥ととととととととととと

弁
け何人れ性成と一なり 必要し

松
何くとも先何のともさうし

なとも多分れとく人の性をさし

松
公好くあゆしと 海のよしと

松
か何の下ゆとさねハ美事お

松
わの葉とるにわか

松
か何のうらうらこいら

何のゆりとり事ともさあね

一月一箇人のさうひよ

かこれぬとあつと

こ何まきれあや 葉のよ介

い後めうこいひん 尾公

あつめう一説あまうこ

て何りあふまふられん

なともゆかり 屋たし

地思ひれ後こ

松
有きれるやゆり

かの御りけし人よ ^秘 乞ふりあるのよせ
宮より出て おきりませ

ふいして御りけし人よ 今おきりませ
源はくおきりませ

お納まとも思ふ事あるは お納まとも思ふ事

おきりけし人よ おきりけし人よ

おきりけし人よ お納まとも思ふ事

おきりけし人よ おきりけし人よ

おきりけし人よ おきりけし人よ

おきりけし人よ おきりけし人よ

おきりけし人よ おきりけし人よ

おきりけし人よ おきりけし人よ

おきりけし人よ おきりけし人よ

おきりけし人よ おきりけし人よ

おきりけし人よ おきりけし人よ

おきりけし人よ おきりけし人よ

おきりけし人よ おきりけし人よ

おきりけし人よ おきりけし人よ

吾礼の公よ八河くさり也

くさりくさり 殺将こころうらうらと心也(心)

いさつよるれといふんれ

河さうらりー河さうら

又多も傍初く思ひのよあー

こころのこころ 秘 芸の継母

しくまると 秘 芸れ実母のゆや

屋りく人まらり 秘 これり又二条院は

芸上れ河よんこまり人二条院へ事や

河河をひういされうう之 希よ河りし河をひ

のこころたこもをれ神とあうんひん

うい思ようあー思よ

君ハたこ君れたをせんきとて

は若乃河のれいせぬみまといんがきんん

れ事しとこ思り出のよとせれまあん

まといとん 秘 又共るつませ

のちれわやと 秘 思

ものちりおんせん 外らりたんすれん

何うしら公あり

是らりハ姫表れいしこ何んう津氏君と

何そひこ此のやうよ志願あすといふ

^秘若の軍い何んともさといふ

也去さうしら公ハ嫉妬うしれんや

或説是らり世上れ夫婦のうといふ家

弟子の初く世方の人乃夫婦はあひい何

し抱ひひあふよまこといふは

ハ又これいふあるいこむまれば

うみららよめて是格れおる事も

出母とらりせば世の君ハ何んといふ

して何をいゆと源れおる事

又さうしら何しハる海わよさうして

何やちとしらうしきりハ是に何なりや

むとあかすい

^秘むとあかうししりハとこよふ

或抄は説よ父子兄弟子ト云張といふ

これいし 夫婦のやうな事あり父子は

あはれしむるはむらさき

